

令和6年度

第3回 教科用図書那覇採択地区協議会 議事録

議事録署名人 宮平美智子

令和6年度 第3回 教科用図書那覇採択地区協議会（概要）

■ 日 時 令和6年7月23日（火） 9：25～17：30

■ 場 所 首里公民館 3階展示場

■ 出席者

会長	宮里 寿子	（那覇市教育委員会 教育長）
委員	銘苅 健	（浦添市教育委員会 教育長）
委員	宇江城 詮	（久米島町教育委員会 教育長）
委員	宮平 美智子	（南大東村教育委員会 教育長）
委員	仲嶺 仁介	（北大東村教育委員会 教育長）
委員	仲本 千佳子	（那覇市教育委員会 教育委員）
委員	手登根 雄次	（浦添市教育委員会 教育委員）
委員	濱川 太	（那覇市教育委員会学校教育課 課長）
委員	宮城 将吾	（那覇市立教育研究所 指導主事）

以上9人

■ 欠席者 委員 玉城 正也 （浦添市教育委員会学校教育課 指導監） ※委任状あり

■ 会 順

- 1 開会のことば
- 2 会議（教科用図書の選定についての協議）
 - 協議 1 国語
 - 協議 2 書写
 - 協議 3 数学
 - 協議 4 理科
 - 協議 5 道徳
 - 協議 6 英語
 - 協議 7 社会（地理的分野）
 - 協議 8 地図
 - 協議 9 社会（歴史的分野）
 - 協議10 社会（公民的分野）
 - 協議11 技術・家庭（技術分野）
 - 協議12 技術・家庭（家庭分野）
 - 協議13 保健体育
 - 協議14 音楽（一般）
 - 協議15 音楽（器楽合奏）
 - 協議16 美術
- 3 閉会のことば

■ 傍 聴 可（公開）

(進行)

はい。それでは定刻になりましたので、これより協議協議会の日程に入ります。昨日の調査員による調査研究の報告を受けて、本日の協議会は、教科用図書の選定に向けた協議を行って参ります。これより後の会議は公開となります。傍聴は5名お見えになっておりますのでお願いします。では開会の言葉を宇江城委員、お願いいたします。

(委員)

はい、改めまして、おはようございます。台風が心配される中ですね。昨日は調査員の報告会が行われました。本当にお疲れ様でした。本日は各教科の協議となりますので、よりよく学習できるように、皆さんで選択していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(進行)

はい。宇江城委員、ありがとうございました。では、ここから会議の内容に入ります。協議会規約の定めにより、会長が議長を務めることとなります。宮里会長、よろしくお願いいたします。

(議長)

皆さん、おはようございます。先ほど宇江城委員からありましたけれども、本当に昨日は、お疲れ様でした。これより会議を進行させていただきますが、初めに、議事録の署名、委員の指名をしたいと思います。本日の会議の議事録には、宮平委員に署名をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(委員)

はい、承知いたしました。

協議1 国語

(議長)

では、初めに国語について協議いたします。昨日、4つの発行者全てについて、調査員による調査研究の報告が行われました。報告書は1ページになります。皆様が推薦する発行者はどれでしょうか。推薦する場合に、発行者とその理由について簡潔に述べていただきたいと思います。では、 委員の方から順序よくよろしくお願いいたします。

(委員)

昨日、調査員の報告を受けてですね、僕としては、光村図書を推薦したいと思います。なぜかという、個別最適な学習に優れてるという報告がありました。それとあと、各教科との関連で、色々ですね、大体がなされてると。それとあと、既習事項の活用ですね。

(議長)

ありがとうございました。じゃ、続きまして、 委員お願いいたします。

(委員)

はい。私は調査員の調査結果を尊重したいので、光村推薦いたします。

(議長)

はい、ありがとうございました。続きまして、 委員、お願いいたします。

(委員)

私も光村を推薦したいと思います。どの教科書もすごく分かりやすくまとめられていて、色彩にもとても配慮されていて良かったんですが、特に光村さんは、紙がかなり落ち着いたトーンで、色調がかなり読みやすいなっていう印象がありました。すると、やはり調査員からの報告があったように、動画の方に字幕が表示できるっていうのが、やはり個別最適な配慮としても生きそうかなと思いました。

(議長)

ありがとうございました。 委員、お願いいたします。

(委員)

はい、目標を設定して、見通しを持って生徒が主体的に学習に取り組むことができるように工夫している中で、光村を推薦します。大きな要因としては、単元に大きな捉えがあるということと、もう 1 つはですね、個別最適な学習を發展させたり、拡充したりすることができるような観点、そして、それぞれの学年に 100 以上のデジタルコンテンツがあって充実してるなということを感じましたので、光村を推薦します。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

光村を推薦したいと思います。理由は、光村さんは学習の流れを一連の流れでわかりやすく学習ができる部分、探究ができる部分と、あと、この ICT 端末を使った学習の中で、CBT を使ったワークシートやテストができるっていう部分もあって、個別最適な学習を發展できるのではないかなと思ったので、推薦したいと思います。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございました。では、■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も調査員の推薦多かった光村を推薦したいと思います。理由としては、光村の教科書自体がですね、すごく見やすく作られているということと、あと、学びの扉であったりとか、学びの鍵であったりとか、その学ぶことに対して、どう捉えるのか、読みを深めるのか、考えるのかっていうことが明確に、こう綺麗に分けられていると思いましたので、推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。では、■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい、私も光村を推薦したいと思います。理由としては、教師の教えやすい、生徒が学びやすいような感じで作られてるかなっていう印象がありました。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私も光村を推薦したいと思います。理由としては、個別学習ができるようにですね、うまく配置されていると。そして、あといいなと思ったのが、作者のところにですね、必ず QR コードがありまして、その QR コードから作者の情報、そしてまた、類似の作品を見つけることができるということで、視野の広がり、それが出ていくのかなということを感じています。以上です。

(議長)

ありがとうございました。では、私の方からも意見を言いたいんですが、私も光村を推薦します。理由があります。光村の 1 年、2 年、3 年を手元に置いていただけますでしょうか。どの教科書も結構見たんですけども、実は、国語、今回の観点のところで、国語を理解し、それをどう捉え、表現していくかっていうところの、この表現をするっていうのは、なかなか実は難しい。自分の考えを出すというのは難しいですけども、思考ツールというのを光村さんが出してます。他のところも出してはいたんですけど、何が違うかっていうと、実は読み物の資料であるじゃないですか。読み物の資料って、例えば、小説ですね。この小説で何を捉えるかです。登場人物の心情を捉える、それとも描写を捉えるのか、それとも相関関係を捉えるのか。こういうように、教科書で何を教えるかが、はっきりしているのが光村だなと思いました。それを子供たちにも分かるようにしています。学びの鍵というところがあつたんですけども、例えば付箋紙が貼られ 3 番を見ていただけたらいいかなと思います。3 番のところに、この単元の学びは、心情の変化を捉えるなんですね。その教材で何を捉えるかっていうのが、はっきりしていて、そこにどう思うツールを使えばいいかっていうのが、出ているのが光村さんでした。結構、思考ツールは出されるんですけども、じゃあどうやってこの思考ツールを使うのか。だから、よく言う、何を学ぶのかもはっきりしている、どうやって学ぶのかもはっきりしている。2年生の 27 ページ、同じく学びの鍵です。1 年生では心情の変化、2 年生では登場人物の設定を捉える時に、下の方のレーダーチャートを使って

見るとかも、面白いなと思いました。そしてまた、考えを深めるっていうのは、広げるっていうところでも、各学年、同じ思考ツールじゃないんですね。それぞれちょっと段階を上げていくので、ここはちょっと他の教科書と違ったところだなと思いました。

(議長)

ということで、全員が光村という風になりましたが、よろしいでしょうか。では、国語は光村を選定したいと思います。選定の理由としては、個別最適な学習に優れている、他教科との関連がある、それから、色調が穏やかで読みやすい、特別支援の視点で動画に字幕の表示がある、単元の大きな捉え、それから、デジタルコンテンツが充実している、CBT を使ったワークシートがある。それから、先ほどお話ししましたと、学びの扉や学びの鍵で生徒が本当に明確に捉えることができる思考ツールが読み物、教科書で何を捉えるかなど、教科書でこう示している、QR コードで作者の情報が見られるという風な理由で、光村という風になりましたが、よろしいでしょうか。では、以上で国語の協議を終了したいと思います。お疲れ様でした。

協議2 書写

(議長)

書写についても同じように■■■■委員の方からよろしくお願いします。

(委員)

教科書の中にですね、中心線がね、しっかり書かれていて、あと、写真を撮って確認できる練習とか、そういったところでやりやすいんじゃないかなということでありました。あと、コンテンツの中にですね、動画があったということで、教育出版を推薦します。

(議長)

ありがとうございました。続いて、■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

私は教育出版を推薦します。理由としては、コンテンツ動画が充実しているので、私は教育出版を推薦します。

(議長)

ありがとうございました。では、■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

私も教育出版の方を推したいと思います。調査員のプレゼンであったように、筆圧の違いなどをしっかり伝えて、しっかりわかりやすく書いてありました。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

書写の学習を通して、日常生活あるいは社会に役立つ観点からすると、文字の見やすさ、大きさ、あるいは、筆圧の違い、写真が見開きで表示されているところがよかったなということで、教育出版を推薦します。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も教育出版をしたいと思います。理由は、書写の学習、授業をイメージした中で、自分自身でこう練習をするというか、学んでいくようなイメージをした時に、とてもこの動画があるということであったり、あとは、教科書で学習した書き方を、応用ができたりするような動画があったり、何より日常の文字に繋げていくように、すごくイメージができるということ。そして、中心線がはっきりして大きい。そして、地域住民、保護者との意見がすごく多かったのも、踏まえて、教育出版を推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。続いて、 委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も教育出版を推薦したいと思います。基本の書き方が、筆圧の違いをこういう風に表現するんだなっていうのが非常に面白かったなと思って、筆先をどこまで紙に押し付けると、この筆圧だよっていうところが3段階で示されていて、流れに沿って書いていくポイントでも、1の筆圧、2の筆圧、3の筆圧っていうのが、どういう風に書いていくと、うまくはらえるんだよとか、非常に分かりやすく書かれていたのと、あとは、硬筆を毛筆にどうやって日常生活の書き方につなげていくんだよっていうところも、非常にこの教科書全体でわかりやすく作られていたので、そういったところを推薦の理由とします。以上です。

(議長)

ありがとうございました。 委員、お願いいたします。

(委員)

私も、 委員がおっしゃったように、いろんな字をいろんな種類で書いていく方法を見ながらですね、ちょっと自分でもやってみたいなっていう気になるような教科書かなっていう気がしました。そして、なかなかこう使わない筆を、子供たちが楽しみながら学習ができていけるかなっていう教科書になってると思い、教育出版を推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。続いて、 委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私の方もですね、教育出版の方を推薦したいと思います。中心線っていうのもあるんですけども、この基本の中にですね、説明が記されているんですね。説明があることによって、子供たちがその筆の動きっていうものが見えてくるんじゃないかな、ということを思います。そしてまた、後ろの方に、学習した漢字がありますけども、他のところは大体、五十音順になってるんですけど、ここは部首でなってるわけですね。部首が分かれば、ぱっと探すことができるもんですから、そういったところもまた、その特徴からということで、この教育出版を推薦したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。では、私ですが、私も教育出版を推薦いたします。本当に最初の基本、これがすごくいいなと私も思いました。本当に筆圧の違いとかね、皆さんがおっしゃっているように、教科書の1番最初の方にある、書写って何のためにやるのっていうところで学んでいくこと。12ページですね、何をこの書写を通して学んでいけるんだろうっていうところ。これ、すごく私、なるほどなって思っ。オリエンテーションの時に使えるなという、これは私自身もすごく学ばせていただきました。はい、以上となります。

(議長)

はい。では、書写は教育出版を選定いたします。選定の理由として、教科書に中心線が、そして学びのリンクコンテンツの中の動画、あとまた、筆圧の違いが示されている。文字の見やすさ、大きさ、写真が見開きで示されて見やすい。自分で練習していくことができる。日常の身近な文字に繋がっている。そして、筆圧の違いを示す写真があり、楽しみながら学習できそうである。そしてまた、最後の方に部首の漢字の一覧表があるということなどがありましたので、書写は教育出版に決定したいと思います。

協議3 数学

(議長)

では、続きまして、数学の協議に入っていきたいと思います。数学は、報告書の17ページになりますので、よろしくをお願いします。それでは、 委員の方からよろしくお願いいたします。

(委員)

はい。じゃあ、よろしくお願いいたします。調査員会の報告を受けてですね、資料や付録が充実しているとか、内容がわかりやすい、それから日常生活のものをですね、章の扉の方に持ってきて、子供たちが興味、関心が湧くんじゃ

ないかなっていう工夫もしておりました。全ての教科書会社がですね、デジタルコンテンツについてはとても工夫しているのは感じられましたが、特にですね、身の回り、他教科、中高の繋がりをですね、意識したコンテンツの工夫をしてたんじゃないかなってということと、つまりきや学びをサポートする内容が充実してるんじゃないかと、あと、授業と連動した内容ですね、あったということで、東書の方を推薦したいと思います。

(議長)

はい、ありがとうございました。続いては、 委員、お願いいたします。

(委員)

私も 委員と同じく、東京書籍を推します。理由としては、動的に捉えると効果的な学習指導が行なえるように配慮されているので、東京書籍を推します。

(議長)

はい、ありがとうございました。続きまして、 委員、お願いいたします。

(委員)

私の方も東京書籍を推したいと思います。どの教科書もデジデジタルコンテンツもかなり充実していて、素晴らしいんですが、東京書籍の方の、特に優れてるなと思ったのは、調査員の調査結果にもあるように、本文の問いは、必ず解けるようになりたい問題にハートマークをつける、また、リンクから端末の補充の問題に取り組めるようにしているってところで、学びのスピードの、個人個人の違いによって、ゆっくりなお子さんには、ここまでの問題はやろうっていう見通しが立てられるってということと、スピードの速い子に関しては、補充の問題で、さらに発展的な問題に自ら取り組むことができるってこともありまして、個別最適な学習が、インクルーシブに 1 つの教科書で展開できるように工夫されてるのかなっていう点が、大変好ましく思いました。以上です。

(議長)

ありがとうございました。続いては、 委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私の方は東書を推薦します。理由としましては、最適な学習を、発展させたり補充したりできる点からすると、デジタルコンテンツが 1752 点、種類が多く、例えば、授業であつたり家庭学習などで活用できる内容になっているかなど。それともう 1 つですね。日常生活をどう関連させているかという話と、例えば 1 年の教科書 112 ページ、数学かけるスポーツ栄養士というのがあるんです。こういうのが、数学では、数学を活用してる人の紹介が、キャリア教育の観点からの数学の有用性、対応、実社会との数学の繋がりを実感する内容。他にも、我が国の伝統文化であつたりとか、国際問題、オリンピック、そういう実社会との関連があつて、とても充実してるなという風に感じました。

(議長)

ありがとうございました。 委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も東書を推薦したいと思います。理由として、知識及び技能の活用を図る学習活動、体系的な問題解決の過程を明確に分かりやすく出してる部分があつて、学習がしやすいだろうということと、あと、1 人 1 台端末環境の上で QR コンテンツを活用した、図形を動かすっていう部分であつたり、また、統計のところでも活用できるようなことも言っていましたので、協働的な学びが授業の中で、コンテンツを使いながらもできるのかなってところが理由です。以上です。

(議長)

はい。ありがとうございました。 委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も東京書籍を推薦したいです。調査員の方のですね、基礎的、基本的な知識、技能の活用を図る学習活動ということで、中学校っていうのが、小学校の算数から数学に変わっていく、また数学はまた、高等学校の高度の数学に変わっていくってことで、その入り口として、この数学っていうものがこう、嫌いにならない基本的な知識をこう最初

からちゃんと蓄えていくってことを考えてきた時に、東京書籍の方がすっきり、書かれてるなど。他の出版社の方々、すごくわかりやすく考えてあるんですけど、ちょっと情報量が多かったりとか、ちょっとこう、一見して、ぱっとずっと読み進めたいと思わないところもちょっとあったりして。例えばこう、東京書籍だと、文章と図形がちゃんと、こう、統一的に、文章は左が寄せられている、右側にグラフや図形が統一的にこう配置がなされていたりってところが、私から見ても見やすいな、やってみたいな、って思うような形で書かれているな、というのがすごく印象的でした。なので、また私も東京書籍を推薦したいなと思います。以上です

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私は東京書籍を推薦します。理由としては、調査員の意見がありました。QR コンテンツ、ヒントと回答、問題を解くためのヒント、類題を表示することで、粘り強く数学に取り組んでいけることができるっていうこともありました。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私の方も、東京書籍の方を推薦いたします。内容について各委員の方がおっしゃられたんですけども、特にこの巻末の方にですね、学びのベースっていうのがありまして、特に中学校 1 年生は、小学校との関連をですね、計算とかですね、掛け算、割り算、あとは小学校でやった内容をですね、こちらの方でもう一度確認をして、中学校の学びとの関連があるんだということをですね、しっかり見る事ができて、1 年生にとっては、小学校の学びを基に、中学校の学習に入れるな、ということで、東京書籍の方を推薦したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。はい。では、私からです。私も東京書籍を推薦するんですが、すごく考えたもののもう 1 つに、教育出版社さんがありました。教育出版社さんの教科書があれば、6 ページから 9 ページをご覧ください。今回、数学的な見方・考え方っていうのを、こういう風になんて言うんですかね。非常にまとめていたのは、教育出版社さんは面白いなと思いました。問題解決をする、進める時、既習事項をやるとか、それからあとは条件や範囲を広げてやるとか、こういう風に、この見方・考え方をこうやって、具体的にやってるのはすごい面白いなと思いました。ただですね、なぜ、じゃあ私が、東京出版を薦めるかという、見方・考え方を系統的にやっている、東京書籍の調査員のもちろん報告もありましたが、私自身、教科書を見ていて、先ほど文末の方で■■■■委員からもありましたが、小学校の流れからこの考え方、着目の仕方を繋いで、小学校からこういう風に、中学校についてこういう見方があるんだよ、こういう性質を使うんだよっていう風なのが、系統的にあるのがすごく面白いなと思って、東京書籍さんに決めました。非常に私の中では迷ったんですが、決め手はそれです。系統性でした。以上です。

(議長)

では、数学は東京書籍を選定いたします。選定の理由として、つまずきに対応できる、QRコンテンツを活用して、図形を動的に捉えるなど学習指導が行えるよう配慮されている、QRコンテンツの種類と数が豊富で、授業でも、家庭学習でも、学習の場面に応じて活用できるようになっている、必ず解けるようになりたい問題にハートマークをつけている、日常生活との関連、キャリア教育との関連がある、小学校の学びをもとにしているということなどがありました。数学は東京書籍を選定したいと思います。

協議4 理科

(議長)

はい、では、これより理科について協議します。理科に関しては、5つの発行者全てに調査員による調査研究が行われました。報告書に関しては 21 ページになります。皆さんが推薦する発行者、その理由について述べていただきたいと思います。では、■■■■委員からお願いいたします。

(委員)

私は、東書の方を推薦します。理由としましては、日常生活と社会との繋がりの中で、学びを生活や社会に広げよう

としているところ、生活や社会に結びつけて考える活動例を豊富に紹介している東書をしたいと思います。それから、小学校の繋ぎが充実しているということも、一点挙げられます。以上です。

(議長)

ありがとうございました。では、■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私は東書の方を推薦します。理由としては、図や写真の配置が全体的に統一されており、図が大きく見やすくなっていることで、東書を推薦します。

(議長)

ありがとうございました。続いて、■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私の方も東京書籍を推薦します。どの教科書も、各単元の導入部分にすごく工夫がなされていて、小学校からの繋ぎや、この単元の見通しなどをしっかり捉えられるように、工夫はされてたんですけど、東京書籍の方は、本当に表紙の部分で、ビフォー、アフターが設定されていて、動画でしっかりと学ぶ意味、重要性、また、学習前後でワークシートを振り返ることで、子供たちが何を学んだのかっていうことが、きちんと振り返られるっていうことが、大変工夫がいいなと思いました。また、調査員の方にも書かれていたんですけど、考察場面での対話例が掲載されていて、言語化が難しい未熟なお子さんに関しても、言語化しやすいような形で、しっかりと配慮されているように感じました。以上の理由から東京書籍を推薦します。

(議長)

ありがとうございました。続いては■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私はですね、思考、判断、表現の観点から、実験、観察の場合には、仮説構造が表記されている、それと2つ目には、学習したことが日常生活や社会との繋がりが実感できるように配慮されている。1つ例を挙げるとすると、社会につながる教育、社会につながる科学が、適切に配置されていて、数学でもそうだったんですけど、キャリア教育に関する防災、減災について、学習したことが日常生活で考えられるよう、非常に工夫されてるということから、東京書籍を推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。続いては■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も東書を推薦したいと思います。観点1の探究過程を通した学習活動っていう部分で、報告にもあったように、この流れを、統一したアイコンで明示し、明記しておいて、とにかく生徒、学習者が、どのような流れで探究活動をしていくのかっていうのを身につけていく上では、非常に入りやすい見え方になってるっていうのが印象的でした。観点2の方で、日常生活や社会との繋がりがっていう部分で、調査員の報告にもあったように、お仕事図鑑、社会につながる科学、防災特集などのコラムの掲載があって、キャリア教育に関する工夫について載っているっていう部分が、非常に魅力的だなと感じたので、東書を推薦したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい、私も東京書籍を推薦します。調査員の観点の方ですね、観点2、これ、他の委員の方もおっしゃってたんですけども、日常生活、社会との繋がりを通してですね、この学ぶ意義を、こう見出しながら子供たちと学んでいく、今の子供たち、そういったところがモチベーションとして必要だと思うので、そういったところが、教科書にどれだけ盛り込まれてるかっていうのは、非常に大事ですし、東京書籍の場合だと、例えば、消しゴムの力の伝わりとか、消しゴムを机に押し付けるとこういう風に、こう力が使って物体の形状が変わるよとかですね。あとは、力のつり合いとかであれば、

綱引きでつり合ってる様子を確認したりとかですね。そういう日常生活の運動とか、そういったところの中から、力も伝わりはこういう風な意味合いがあって、それを勉強することが明確に示されているので、非常に分かりやすい、学ぶモチベーションを保ちやすい教科書だな、と思いましたので、推薦したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も東京書籍を推薦します。調査員の皆さんの報告、そして今委員の皆さんが発表したのと、中は大体一緒なんですけど、私がちょっと楽しいなと思ったのは、この教科書が、どうして、なんで、っていうような、このクエスチョンが楽しい内容になってるなっていうのが、1番特徴かなと思いました。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私の方も東京書籍を推薦いたします。小学校との繋がりという形で観点を見てみました。そうするとですね、中学校1年の教科書なんですけども、単元の初めに、この単元で学ぶこととして、そしてその上の方にですね、小学校との繋がりが示されてるんですね。例えば、光の世界という章であれば、小学校の日光の進み方とかとの伝わり方、それがこの中学校で学ぶ理科にあるんだよということで、小学校の学びというものをしっかり生かされて中学校と結びつけているなということで、東京書籍を推薦いたします。

(議長)

はい、ありがとうございました。私も東京書籍さんを推薦したいと思います。皆さんがおっしゃっていたように、学ぶ意味だとか、それから今防災とか、そういう風なのに繋がっているな、というところがありますし、また、私も、先ほど■■■■委員が言いましたけれども、この吹き出しの部分がすごく、なんて言うんですかね、視点を子供たちが築くような視点があって、これで比較検討すればいいんだ、みたいな形がすごくいいなと思ったので、東京書籍にしました。以上です。

(議長)

では、理科は東書を選定したいと思います。選定理由としては、学習したことを日常生活や社会につなげる読み物や、生活や社会に結びつけて考える活動例を紹介している。小学校との繋がりが示されている。本文の配置や図の写真の配置が、全体的に統一されていて、図が大きく見やすくなっている。各体系、各章の学習前後に同じ問いかけ、ビフォー、アフターが選定され、学ぶ意味や有用性、学習前後における生徒の変容を見ることができ、実験、観察の前には、仮説や構想が表記されて、考察の場面で対話例が掲載されており、協働的な学びを行う工夫がされている。社会につながる科学、防災特集などのコラムがあって、キャリア教育に関する工夫や防災、減災、学習したことを日常生活に結びつけて考えるようになっている。そして、どうして、なんで、が楽しい内容になっているところがありました、よろしいでしょうか。では、理科は東書に選定したいと思います。ありがとうございました。

協議5 道徳

(議長)

では、道徳の協議に入りたいと思います。報告書は41ページになりますので、よろしくお願いします。では、委員からよろしくお願いいたします。

(委員)

はい。よろしくお願いします。推薦するところがですね、二つあって迷ったんですが、一つ目はですね、光村。光村の方は、人生をですね、物語にしているところが、興味があったなという、自分事としてですね、人生を物語にすることと、教材が使われてて、取り組みやすいんじゃないかなという点がございました。それから、生徒自身と社会を結びつけてですね、道徳的価値や人間の生き方に迫る内容構成もあったということでした。あと、もう一つはですね、日文なんですけど、日文の方はですね、身近な場面から道徳的価値について考えを深めさせているということと、やっぱり、取り組みやすいんじゃないかなという感じがしました。あと、一番感じたのはですね、複数の立場で考えさせる教材構成になっているということで、いろんな人がいますので、そういったところでですね、互いの意見を尊重できるように、考えを深めていけるんじゃないかなということがありました。あと、両方ともなんですけど、いじめ、多様性とかですねSDGsについ

て取り扱ってること、現代の課題についてですね、述べてるということでありましたが、自分は日文の方を推薦したいと思います。

(議長)

ありがとうございます。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私は光村を推したいと思います。理由としては、対話を通して、学びのテーマに迫るための問い、中心的な発問が用意されているので、光村を推薦します。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私も光村を推したいと思います。日本文教出版ともすごく迷ったんですけど、まず光村は、この道徳、どの教科書も道徳の学習の最初の方で、道徳的に何を学ぶか、ということが書かれているんですが、それに関してすごく簡潔に、すごく端的に強いメッセージでまとめられてて、すごく道徳を通して何を子供たちに学ばせたいのか、ということが、とてもわかりやすく書かれてるなあとということと、また道徳の道案内っていうのがあるんですけど、それも、すごく文面もすごくやわらかくて、この1年、道徳で何を学んでいかないといけないのかっていうことが、見通しが持てるんじゃないかなっていうことが非常に印象でした。あとは、この同じ題材を、複数の教科書が扱ってるんですが、特に、裏庭での出来事っていうのがですね、日本文教出版の方は、一年生の140ページから始まって、学びを深めようというのが145ページに書かれています。光村の方は、同じ題材なんですけれど、一年生の70ページから始まって75ページの方に、チャレンジっていう形で、考察が書かれてるんですけど、同じように演じて、それぞれの立場キャラクターを演じて、それを見ながら、この出来事に対して深めていくっていうようなことなんですけど、光村の方は、演じる時のその演者が、どういう気持ちで、この言葉を言ったのかとか、どういう言葉を、気持ちを込めたんだっていうことを、考えてみようとか、見ていた観客側としては、こういう表情だった、こういう気持ちだと思いましたっていう形で、言語化しやすいような形で、自分の言葉を、そこに当てはめることで、自分の気持ちとして表出しやすいような、誘導されてるのかなあっていうふうに思いました。少しく、日文の方は、指導者の誘導がちょっと強いかなあと、大人が導きたい色に導かそうっていう力が強いかなあと思いました、主体的に学ぶっていう面からは、光村の方が、子供たちへのこのプレゼンの仕方っていうのが、すごくよくできてるんじゃないかという印象でした。そのような理由で、光村の方を推したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

どの出版社もですね、内容とても充実してるなっていう感じがあります。中でも悩んだんですけど、日文と光村で、この二つで悩みました。特に注目してたのは、いじめ問題をどう扱ってるのかな、というところで、光村も日文もですね、しっかり時期を見ての配列が、しっかりしているということではあったんですけど、もう一つの理由としては、一部には、ノートがあって、ノートの工夫がされてるな、何かといったらですね、中心発問が道徳でとても大事になるかなと思ってんですけど、先生方によって変えられるというところで、日文さんが作ってる道徳ノートはいいかなと思って、私は日文を推薦します。以上です。

(議長)

ありがとうございました。続いて、■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私も光村と日文で迷ったんですけども、観点2、広い視野から多面的、多角的に考え、人間として、生き方についての考えを深められるように配慮されているか、っていう観点に関して、日文さんの、自分にプラスワンであったりとか、あとは、その他にはなるんですけども、学びを深めるヒントの中に、豊富なシンキングツールっていうのが、光村さんにもありはするんですけども、日文の方には、この教材の最後に、要所要所が入っていて、こういうふうに考えると整理できるんじゃないかなっていうような感じで、そっと添えてある感じが、子供たちの、この思考というか、整理できるのに、入

りやすいかなというふうに印象を受けました。あと、ノートに関しても、ノートがあることで授業の部分も進みやすい部分もありますし、この、問いの方が以前は書かれてあって、ちょっと使い勝手がついていうところがあったんですが、その辺りも改善されてる部分を考えて、私は、日文の方を推したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。続いて、 委員お願いいたします。

(委員)

私の方も迷ったというか、今も迷ってるんですけど。推薦したら、日文の方をちょっと推薦したいなと思いました。今、社会が多様化してる中で、いろんな人のいろんな考え方がある。それを、そういういろんな考え方があるんだっていうことを認めるために、授業の中でも、いろんな人の発表を促すとか、その建設的対話みたいなものやっていくってところが、非常に、今の世の中は大事なかなあというところもありで。私個人的には、道徳の授業の中で、答えを出す必要はないんじゃないかなって思ってるものなので。だから、やっぱ必ずどっちかの答えが善か、みたいな答えを出すっていうふうな、進め方をしない前提で考えるんだったら、どっちがいいかって考えた時に、日文の方がいいのかな、というふうには考えました。ノートの方も出てきてたんですけど、中心発問がもう抜かれてる状況の中で、それぞれ工夫しながら、答えを見いだす見いださない中で、いろんな工夫ができていけるのもいいのかなと思いながら、日文を推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。続いて、 委員お願いいたします。

(委員)

私は光村を推薦したいと思います。道徳ってなんだろうって考えたときに、光村さんの方から、入りやすいのかな。子供たちも、教員もそのポイント、ポイントで学んでいくことができるかなあ、っていう教科書になってると思いました。それと、生物多様性の方にも関わっていて、人間だけではなくて、自然界の中でもいろんな、一緒に生きていくっていうようなことを触れられてるところがよかったなと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。続いて、 委員お願いいたします。

(委員)

私の方は、日文の方を推薦いたします。光村とですね、大分迷いはしました。どちらの方がいいかな、ということやったんですけども、道徳っていうのは、自分を見つめるということが大切なのかな、ということになるとですね、この道徳ノートの方が、自分を見つめるということの一助になるのかな、ということですね、道徳ノートの構成とか見ていても、これまでであった、この中心発問というのが、これが、その時その時の担任の方とですね、やりとりの中で出てくるだろうと。そして後ここ、自分にプラスワンというところで、自分の考えを、そして周りから友達のことをというところで出てくるのかな、ということですね、そういった意味では、自分に向き合うという観点からすると、日文の方が自分の方に向き合う姿勢が強いのかなということで、日文の方を推薦いたします。

(議長)

ありがとうございました。私も本当、日文と光村ですね、非常に迷いましたけれども。結論から言うと、私は光村がいいかなと思いました。日文さんの良さは、本当に子供たちには非常に入りやすいかなあと思うのがありました。特に一年生なんか、主人公が、こうなんですか、主人公になる子たちを、最初に持ってきて、話に入りやすいようにしているのとか、皆さんがおっしゃってるように、ノートがあるんですけど。光村さんが面白いなと思ったのが、先ほど 委員が話していた、最初のこの、道徳の道案内っていうところですね。テーマを決めて、その配列をしているというのがすごく面白かった、10 ページ、11 ページ。一年生になるんですけども、その道徳で、何をこの子たちに考えてもらうのかっていうのが、非常にはっきりしているなっていうのが、子供たちにもわかる、いじめだけではない、いじめもちろん大切なんですけど、道徳、実はこれから防災だとか、キャリアだとか、いろんな視点が入っている、あと社会参画とか、そういうのが、今回、光村さんは、非常に意識しているのかなあと思いました。また、教科書の 182 ページで、教科別の一覧のところにも、その7つのテーマ、1 から 7 というところで、今言われているところですね、大事と言われている、部分のものも意識して、配列してるなあと思ったんですね。なので、そこを思いました。あともう一つ、手法として、先ほど

これも■■■■委員が出てたんですが、ロールプレイをあげている、その教科書の中で、道徳では私もやってきましたけれども、小学校ではよくやるんですけど、中学校でもこのロールプレイを持ってきて、本当に相手の気持ちを考えるっていう手法を持ってきてるのは面白いなあと思ったので、光村にしました。

(議長)

となるとですね、過半数でなると、難しいなと思ったのが、■■■■委員がいないんですね。■■■■委員がなくて、委任するっていう形なので、9名っていうふうな考え方でよろしいんですかね。9名で過半数ってなった場合は、5名、先ほどの11条のところでも確認しましたが、全員一致が、まずは前提いうところなんですけど、全員一致しない場合は、過半数ってなってますが、2社に関してなので、委任ってなった場合は、今日9名で、議決してよろしいですか。そして委任ってなった場合は、決まったことに対しての委任ですもんね。委任になるので。それとも、もうちょっと話を深めていきますか。もうちょっと話を深めてやってもいいのかなあと思うんですけど。今出た中では、ノート。結構大きかったです比重ね。中学校の先生たちのお2人からすると、■■■■委員、それから■■■■委員は、えっと、中学校の教師なんですけれども、ノートがあるということは大きいんでしょうか。小学校の場合は、ノートっていうのは自分たちで使っているんですけども。中学校においてこのノートのところ、もう少し聞かせていただけたら、また、私たちの判定のものにもなるのかなあと思うんですけど。よろしいですか。■■■■委員から聞いて、■■■■委員お願いします。

(委員)

中学校では、道徳の授業とかを持ち回りというか、小学校でもやられてるのかもわからないんですけど、担任だけではなくて、担外の先生も、学年でローテーションして、授業をやるうというところがあったりするんですが、みんなで見ようっていうか、負担も含めてですけども、そういった中で、このノートが統一されて、使い方も含めて、統一されていると、今どこまでやったとか、すぐに見通せたりとか、あとは、ここをこういうふうに使ったよ、とかいう交流もしやすく、それで、ノートは私の中では、そういう意味だ、なんていうか、使いやすいというか、そういう取り組みはしやすいなというふうに感じています。

(議長)

ありがとうございます。今、中学校は、担任がっていうよりは、みんなで道徳を教えるっていうのは、■■■■先生だけじゃなくて、他の学校をもっとところですか。

(委員)

はい。多くなってきました。全部ではないかもしれないんですけど。みんなでこの学級を見よう、っていう気運があるっていう、学年をまわしていきながら。

(議長)

なるほど。■■■■委員もありますか。

(委員)

そうですね今、■■■■委員がおっしゃったように、このローテーション授業、誰が授業しても、いいようなローテーションしてる中で、どう統一するということは、いいことかなあと思って、先生によってバラバラであったり、学年によってバラバラでというのは、子供たちによっては、何であっちはこうなのに、この学級はこうなの、というのもなくならない、そういう意味では、統一したものと良いかなと。もちろん、学校独自で何かしら作成してやるのもいいんですけど、こうやって、ノートを示してくれると、とてもありがたいかなと思います。

(議長)

■■■■委員お願いします。

(委員)

展示会の意見の方で、やっぱり教育関係者の方々の意見で、日文の方が現場の先生方の声が、日文の方が、やっぱり扱いやすい教科書だということであれば、日文も確かに、内容としてしっかりした内容であることは確かなので、日文でもいいのかなとします。

(議長)

そうですね。今の現場の声を聞いてですけど。光村がいいという■■■■委員や■■■■委員、ありますか。

(委員)

何か、この今ノートのお話を聞いたりとか、[]委員の話、それからまた、展示会での意見には、確かにこの教職員の方々の意見とかありましたけれども、現場の先生方の話を聞いていいのかなと思ったので、私も日文でもいいのかなと思ってます。

(議長)

はい。ありがとうございます。[]委員はどうですか。

(委員)

私は今、現場の話を聞いて、ノートの活用とか、そういったところではいいかなと思ったんですが、教科書的には、私は、光村の方が薦めたいなと思っています。

(議長)

なるほど。内容でってことですね。

(委員)

はい。

(議長)

教科書を選定するにあたり、その内容、それからもう一つ、先生方の視点っていう部分もあるのかなあとは思っていて、今お話があったように、展示会での声、それから今現場の先生方の声を聞いたときに、使いやすさというところでは、何ていうか、ノートがついている日文さんがいいのかなというところ。ただ、内容も、実は、私は、光村、本当に新しい視点だなというところが非常にあるなあと思ってるんですね。日文さんは結構いじめに特化しているところがあるなど見ていたのと、あともう一つ、ちょっと今、探せないんですけど。実は沖縄の教材も日文さん入ってますよね。崎山さんでしたっけ。パスガイドさんのことが入っていて、それも面白いなあと思っていたので。

(議長)

今、[]委員、それから[]委員の方が日文っていうふうになった場合は、私は、一応、私も光村の方を教科書的には本当は推したいです。やはり、どの教科書もいじめはすごく取り扱ってて、大事な視点なので、いじめっていうところを見てみたんですけど、光村のいいところは、一年生の特に最初なんですけれど、いじめの題材がですね、大切な友達ってどういうことかなって、大切にしたい。人間関係ってどういうことかなってところから入っていくんですね。だから、他の教科書は、結構もう最初から、いじめってなんだろうとか、傍観者になるってどういうこと、っていうような、もうダイレクトにいじめのところに突っ込んでいくんですけど。光村は大事な友達だけど、大事に思う気持ちってどういうことかなあとか。公平とか公正とか、そういうことってどういう気持ちなのかなあっていう、そういう視点から、いじめの方に入っていくっていう、この段階がですね、すごく子供のやさしい気持ちに寄り添いながら、いじめの問題に向かっていこうっていうふうに、その意図がすごく優しく感じるなああって、いうふうには思っていて。まだ光村を推したい気持ちはあるんですけど、無理でも、現場のやりやすさ、クオリティ、いろんな力量の先生方がいる中で、使いやすさっていうのは、もうかなり大きいことではあるので、選定に関して、日文である先生たちの意見は尊重したいなと思いました。

(議長)

ありがとうございます。日文と光村、非常にとてもいい教科書、内容だったんですが、現場の先生の声、結構多かったですね。展示会等で使い勝手が良いというか、使ってて、とてもやりやすいというところの意見なのかなあと、思うので。そうなりますと、票で言いますと、さっきは5対4だったんですけども、お2人、[]委員と[]委員は、日文というところで、7対2というところで、過半数を超えたというところで、日文さんの方の決定でよろしいでしょうか。大丈夫ですか。はい。ということで、道徳の方は、日文の方に決定したいと思います。よろしくお願いいたします。

では、道徳は7社ありましたが、日文の方に、決定しました。選定の理由としては、複数の立場で考えている教材、ノートが一番多かったと思います。そしてこの道徳が自分を見つめる一助になる、学びを深めるヒントの中には、豊富なシンキングツールが要所要所に入っている、教科書の発問、自分にプラスワンの内容が入っている、沖縄の教材も入っている。それから、やはり現場の先生の聞いたときに、道徳の場合はローテーションで行われるので、ノートが統一されると使いやすいのではないかな。また、展示会の意見で先生方の声が多かったっていうことで、最初は5対4で

したけど、日文の方に2人移動したということで、7対2ということで、過半数を超えたということで、日文の方に決定したいと思います。お疲れ様でした。

協議6 英語

(議長)

続きまして、英語について協議いたします。6つの発行者について、調査員による調査研究の報告が行われました。報告書に関しては38ページになります。皆様が推薦する発行者はどれでしょうか。推薦する発行者とその理由について簡潔に述べていただきたいと思います。では、委員、よろしくお願いいたします。

(委員)

よろしくお願いいたします。昨日、調査員からの報告では三省堂さんと啓林館さんの方の推薦ということでありますが、自分の方は、ちょっとこれまで使っていた教科書の方がいいんじゃないかということで、展示会における意見書の中を見てですね、ちょっと考えるところがあってですね。教育関係者の方は、今回使用してとてもよかったので継続したいと。それから、特に3年生のディベート教材がよかったということで、最後のまとめですね、高校への繋ぎもこれもしっかりできるんじゃないかなということで感じました。あと保護者の方は、三省堂の方は多様な言い分がわかりやすいとかですね、地域住民の方も、教育出版の方がですね、学校の話題だけではなくて、いろんな社会問題も取り扱っているの、これからの社会に出て行く子供たちにとっては、いい教材じゃないかなということで。あといろんなジャンルの内容があるということですね。書かれてたので少し気になってですね、調べてみました。あと、この内容解説資料の中でも、特色としてですね、小中接続のもの、特色1の方はスムーズな小中接続について書かれていて、学びの方ですね最後、一年生の方でも、漫画を取り入れて、内容構成をしていると。それから、生きた英語、話すことが重要ですので、コミュニケーションで使う英語ということで、そういったところも特色としてあげてると。あと三つ目は、定着するように、定着と応用が叶う教科書ということで、いろんな工夫がされてることでですね、書かれてました。最後の方はもう技能領域のコツを習得するというので、工夫してることですね。コンテンツも使いながら、そのアクティブプラスとか、ピップスを使ってですね、やってるということで、内容があったので、最後の方ではまた、未来に開く多様な題材といろんなものがありました。三省堂さんの方は、AIを活用してですね、発音の仕方とか、そういったのも訂正してくれますよ、という提案がありましたが、それも本当魅力的ではありますが、自分としては、今見ていたら、教育出版の方が、今使っていて、これも継続して使うのがいいんじゃないかなということで、自分は教育出版の方を推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。委員、よろしくお願いいたします。

(委員)

私は三省堂を推します。理由としては、語句などの知識・技能を獲得するための支援として、デジタルコンテンツが用意されているので、三省堂を推薦します。

(議長)

ありがとうございます。委員、よろしくお願いいたします。

(委員)

私も三省堂を推したいと思います。どの教科書も、すごく子供たちの興味関心を引くような題材を扱っていて、とても工夫されてるなと思ったんですけど、三省堂の方は、特に一年生の教科書の最初の方なんですけれど、小学校の導入、小学校からの接続ってということで、少しゲーム感覚を入れて、とても楽しい雰囲気、中学校へ誘うっていう形になってるっていうのも、大変好ましいと思いました。あとは教科書の構造として、見開き1ページで、リスンから始まって、書き取り、ねらい、ライティングで終わるっていう形で、まず聞いてみよう、あと発表してみよう、それから文字に入っていく、読む書くっていうことに入っていくっていうのが、3年生まで、これ一貫してそういう構造になっているっていうことで、大変わかりやすくなっているなあっていうふうに感じたので、三省堂の方をしたいと思います。

(議長)

ありがとうございました。委員、よろしくお願いいたします。

(委員)

はい。どの出版社でもですね、身近な題材を扱っていて、生徒にとって親しみやすい、興味が湧く内容かなと思いました。その中でも私は三省堂を推します。身の回りの問題、社会的な課題を通して、人権、生命等を考えるきっかけとなる題材が豊富に扱われて、道徳性を養う工夫がされているなどというのがあります。それともう一つはですね、いつでもどこでも自分で音声確認できるコンテンツが多いということも、ひかれました。もう一つは、ゴールアクティビティが單元ごとにあって、思考、判断、表現をする、言語活動の工夫がされてるなと思いましたので、三省堂を推薦します。以上です。

(議長)

■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私も三省堂を推したいと思います。理由は全社、この言語活動を通してこのコミュニケーション力というか、どう育成するっていうことを、ICT使って、どのようにできてるかなっていう観点で見ると、どの部分も使ってはいるとは思んですが、何より、三省堂さんでは、先ほどから意見があるように、どこでも練習ができてというか、確認ができるAIを入れているところとか。あとは、各單元での、くくりで、スモールプラスとか、そういったのを入れているっていう部分で推したいと思います。あと、プラスで小学校の学びを中学校へスムーズにいくような、配慮がされているっていう部分で、すごくいいなと感じました。以上です。

(議長)

ありがとうございます。続いて、■■■■委員お願いいたします。

(議長)

私はですね、ちょっとまた私、他の委員さんと違って、開隆堂さんを見て、迷っていたところがあってですね。どうしようかなあと思っていたんですが。開隆堂さんも非常に見やすくてですね。文法とかが、そのいろんなページに、文法のこと散りばめられてるんじゃないくて、よくわかる英語みたいな形で、一つのページに文法がきちっと綺麗にまとめられてるってことで、子供たちが学ぶって考えた時に、文法、ちょっととっつきにくいですね。やっぱみんなしゃべりたいはずだけど、文法の勉強もしなきゃいけないってなってきたときに、一つのページにきちっとそれが簡潔にまとめられてるのもいいのかな、と思いはしたんですけども。やっぱ三省堂さんのものを見てみると、この話すっていうことを考えてきた時に、いろんなコンテンツの中から作られてるなっていうことと、特にあと斬新だったのが、AIを使って発音の判定をしてもらっているところが、今の子供たちにも、これAIを使って、あなたの発音判定してもらってるよ、みたいなところも結構、子供たち食いつきが良くなるのかなあとかですね。そういったところを考えると、主体的に自分たちがやりたい、やりたいって思う部分に関しては、三省堂さんの部分が長けているのかなあと思いました。あとは小学校からの繋ぎっていう部分で、三省堂さんの部分は非常にそういうところもわかりやすく、繋がってるなっていう印象を持ったので、迷ったんですけども、三省堂さんを推薦したいなと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございます。続きまして■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私も三省堂を推薦します。理由としては、皆、文法も上手なだけで、言葉が通じてないよねっていうことがよく聞かれたりするので、この方で、音声をAIで判定するっていう新しい取り組みをやってるっていうところから、三省堂さんを推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございます。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私の方は三省堂を推薦いたします。小学校から中学校に上がるというのと、この教科がどんなのかなということで、子供たちは大変、興味関心の方が強いと思うんですね。その中で、今の中学1年生は、5年、6年で英語の教科を行っていますので、その5年6年の教科で学んだ英語を、中学校の方にどう結びつけるかなということですね。教科書会社の方を見ますとですね、三省堂さんの方が、レッスン1からレッスン4までですね、その繋ぎのためのレッスンになってるんですね。そして、その中には、また、一覧表としてですね、これまで小学校で学んだような、単語の方が

羅列されていて、それをうまく使って、また言葉の方を続けている、それからまた、本格的に中学校の英語の方に結びつけることができるのかなということで、小学校の興味関心を中学校の方に接続できるというような観点からですね、三省堂の方を推薦していきたいと思います。

(議長)

ありがとうございました。では最後私ですけれども、本当に各社、非常に工夫が凝らされていて、すごく読んで面白かったですけれども。調査員の方から、三省堂さんそれから、啓林館さんだったんですけど。その2点でちょっと比べさせていただきました。違いは何かになって思ったときに、目標の掲げ方が違うなと思いました。各单元、三省堂さんはゴールアクティビティって書いてるんですね、ゴールアクティビティっていうのは、单元最後、こういう活動ができたらいいていう、その具体的な姿が、書かれていました。啓林館さんは、ユニットゴールって書いていて、それも面白かったのが、インプットとアウトプットって分かれているんですね。実は、英語は、聞く読むはインプット、話す書くはアウトプットなんです。そういうふうに、実はこの後、領域があるんですけども、そこを分けてやっていて。さて、子供たちがどっちの方が、具体的にこの单元が終わったら、自分はどういう姿になっているんだろうっていうのを。理解しやすいのはどっちかなあって思ったんですね。それで結局はそう考えたときは、インプット、アウトプットって書いてるのは、すごい面白い視点だなって思うのと、あともう一つ、調査員からありました、即興的な部分というところでは、また、啓林館さんの方が評価されていたので、私の場合は、啓林館というところで推薦したいと思います。

(議長)

では、今、3社ありました。教育出版、三省堂、それから啓林館ですね。ただ、三省堂さんが7票、そして教育出版さんが1票、それから啓林館さんが1票ということで、7票ってなると、過半数を、超えている形になりますので、三省堂さんの方に決定してもよろしいですか。大丈夫でしょうか。決定は三省堂という形で決定したいと思います。

今回、外国語は、三省堂、啓林館、開隆堂、光村、東書、教出と、6社ありましたが、三省堂に決定、選定いたします。選定理由としては、語句などの知識・技能を獲得するための支援としての、デジタルコンテンツが用意されてる、特にAIで判定できるというのはとても大きなものだったかと思います。それから小学校からユニット4まで接続がスムーズにできている、構成がわかりやすい。そしてアクティビティーが、最後調査員が話してましたけれども、各单元ごとにゴールアクティビティが選定されている、というところでの選定理由としてよろしいでしょうか。ありがとうございました。ではこれで英語の協議の方を終わりたいと思います。

協議7 社会(地理的分野)

(議長)

ではこれより、午後の協議を開始したいと思いますよろしくお願いします。では午後1番目の協議は、地理、そして続いて地図という形で続けて参りたいと思います。では、まず最初に地理からですけれども、昨日、4つの発行者、東書、教出、日文、帝国の4つの発行者すべてについて、調査員による調査研究の報告が行われました。報告書は5ページになります。よろしくお願いします。では皆様が推薦する発行者とその理由について、述べていただきたいと思います。では、■■■■委員、よろしくお願いいたします。

(委員)

よろしくお願いします。まず、帝国書院の方を推薦したいと思います。その理由としましては、各発行者ともですね、デジタルコンテンツがとてもその充実してるなということがありました。あとですね、地図やグラフに小学校との繋がりが表記されていて、あと、学習の振り返り等、学びの手だてが充実してるというところがいいかなということでした。各発行者ともですね、デジタルコンテンツについてはもう充実していて、個別最適な学びは、同じようにできるんじゃないかなという感じをしましたが、その中でも、こういったところ、写真とかも充実しているので、帝国書院の方を推薦したいと思います。以上です。

(委員)

ありがとうございました。続いて■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私は帝国をします。理由としては、単元のまとめにおいての話し合い活動で、教科書に掲載されている写真、グラフを基にした話し合い活動が設定されているからです。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、よろしくお願いいたします。

(委員)

私も帝国の方を推したいと思います。理由は、視覚情報として、写真や図表、またグラフなどがすっきりとしていて、大変読みやすいのではないかっていうことと、特に、地図においては先日、調査員の方からも提案があったんですけど、沖縄地方、169 ページなんですけれど、九州地方を学ぶにあたっての、沖縄のこの地理的な掴みですね、それがしっかりと掴めるようになっていていうところに、すごく心配りがあるなっていうふうに感じました。そのような理由で、帝国を推したいなと思います。

(委員)

ありがとうございました。続いて、■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい私も帝国を推します。主体的に学習できるような視点、観点として、目的や用途に合った様々な思考ツール。これ、検討の 9 ページにあるんですけど、マトリックス、ベン図であったり、ウェディング、ステップチャート、他にもいろんな思考ツールを提案してて、学びを深めるための話し合い活動に展開しやすい工夫がされてるなど。それとデジタルコンテンツがどの出版社よりも多いのかなと感じています。以上です。

(委員)

ありがとうございました。続いて■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私も帝国を推したいと思います。それぞれの会社の方でデジタルコンテンツのところを見てみたんですけども、特にこの地理の時差を見たりとかする、この立体的に地球を見たりとかするような部分のコンテンツで、アニメーションとか、自分で動かすものになるのかな。アニメーションを、図解を理解しやすくしていたりとか、そういう中、なかなか理解しづらい平面を丁寧にやってくれるようなもの、資料の提示の仕方がすごく丁寧なのかな、というふうに感じましたので、特にこの部分において帝国を推したいなと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。続いて、■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

私も帝国書院を推薦したいと思います。もうデジタルコンテンツが充実してるとか、資料の並べ方とかも、各社差がなくなってきたのかなっていうところで、じゃあ何を見た方がいいのかなということで、昨日、調査員からもあったんですけど、例えば同じ北アメリカのニューヨークの写真を並べたときにも、他の教科書会社も発行者は、広く遠巻きにとつてる街並みを写真撮ってるものと、あと帝国書院の場合だと、マンハッタンの街、人がいる場所、いろんなお店がある場所みたいなものを撮っていて、どっちが身近に感じれるかなとか、あとはグローバリゼーションの中で、同じ町並みに、日本にもあるようなファーストフードのお店のものがあるとかですね。そういうものが、本当に細やかな選定の仕方が、差があるなっていうところで、帝国書院の方が少し、すぐれてるのかなということで、そこをちょっと推薦理由にしました。以上です。

(議長)

ありがとうございました。続きまして、■■■■委員。

(委員)

私も帝国書院を推薦したいと思います。理由としましては、思考力、判断力、表現力を育成するような工夫がされているっていうことと、あと教育者関係の皆さんが、すごく帝国の方を推してるっていうところから、使いやすい教材になっているかなあと感じました。以上です。

(議長)

ありがとうございます。続いて■■■■委員お願いいたします。

(議長)

私の方も、帝国書院を推します。まずですね、小学校とその接続がどうなってるかっていうところをですね、見てみたところ、ほとんどのページの下の方にですね、小学校、歴史、公民、そして他教科との関連ということで、印が入ってるんですね。そうすることによって、小学校で習ったことをですね、もう一度思い出していくっていうようなことができるのかなと思います。それと、思考ツールについてですけど、単元末にですね、確認し、説明しようというところがあります。そこをですね、やることによって、自学自習、個別最適な学びの方ですね、結びつくんじゃないかなと思ってます。そして読み物についても、地理プラスというのがありまして、興味関心を持たせるようなですね、良いものが、各単元に配置されていて、小学校の社会科というところから、中学校の地理ということにですね、変わるときに、その楽しさとか、そういうものをですね、感じさせてくれるのかなと思います。今、一つだけ例を挙げますと、帝国書院のですね2ページに、教科書2ページになると思うんですが、世界の姿っていうのがあります。地球儀のですね、見ると、日本どこにあるかなということを探していくんですね、子供たちが、今までに、子供たちが見る、地球儀っていうのはいつも日本を中心とした配置だったんですけども、これを見ると、あれ日本の位置ってどこだろうということで、見方を変えると世界が変わるよというようなことが、また、地理の醍醐味かなと思いましたので、帝国書院を推しました。以上です。

(議長)

ありがとうございます。では私ですけれども。私も帝国書院を推したいなと思います。一つは今回、全部の教科に関してですけども、見方・考え方というところの、どの教科もそこを話していました。見方・考え方がしっかりこうなんか配慮されてっていうか、きちんと見える形にしてるかって言った時に、やはり、地理的な見方・考え方って何かなって言った時に、他の教科書のところにも載ってはいるんですけども、帝国さんは、きちんとまとめられてっていうか、位置や分布、その場合、こういうふうなっていう、ただ位置や分布、場所、地域との繋がりとと言う項目だけでなく、それに関して、こういう見方・考え方っていう吹き出しもあるので、すごくいいなと思ったのと、あと一つ、私はずっとどの教科でも思考ツールですね、国語においても、算数においても、どの時でも、この思考ツールっていうのが、すごく今回、大きいかな。子供たちの表現をするときに、この帝国さんも、この思考ツールを紹介しているので、それで、帝国書院を推したいと思います。それからもう一つ。先ほど、■■■■委員からありました、その位置的な、沖縄の位置がやはり離れてるという地図の見せ方がすごくまいなと思ったので、帝国を推したいと思います。

(議長)

それではですね。全員が帝国書院というふうになりました。地理に関しては、帝国、日文、東書、教出の4社ありましたが、その中で、帝国を選定したいと思います。理由としましては、デジタルコンテンツが充実している。特に、地理の時差を立体的に見れるという特色があった。学習の振り返りが充実している。単元のまとめにおいて話し合い活動で、教科書に掲載されている写真やグラフをもとに、話し合い活動の設定がある。写真や図表もよい。目的や用途に合った様々な思考ツールがあり、学びを深めるための話し合い活動に展開しやすい。ニューヨークの写真が面白かったですね。それからまた、展示会において帝国書院を推してる方が本当に多かったです。教育関係者が推している、小学校との接続として、ページの下に印が入っている。単元末の自学自習に繋がるページがある。社会科が地理に変わるとき、これは小学校からのつなぎですけども、楽しさを感じられるというふうにありましたが、以上のことでよろしいでしょうか。では、帝国に選定したいと思います。

協議8 地図

(議長)

続きまして、地図の方に行きたいと思います。地図の方に関しては、2社、帝国と東書の2社が、調査員による調査研究報告がありました。報告書は15ページにあります。では、■■■■委員お願いします。

(委員)

私は帝国書院の方を推薦したいと思います。その理由としましては、小学校の方からですね、生徒になじみがあって、既習事項も活用しながら、段階的に地理的技能を高めることができ、自分で主体的に学び取る工夫がなされているということと、あとは、教科書と併用して、活用できるんじゃないかなということですね、帝国書院の方を推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。続いて■■■■委員、よろしくお願いいたします。

(委員)

私も帝国を推します。理由としては、環境問題、防災、安全に関する資料が形成され、現代の課題に対して、探求できるような工夫がされていたので、推薦いたします。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員をよろしくお願いします。

(委員)

私も帝国を推したいと思います。地図の部分が、すっきりして見やすいっていいことももちろんなんですけれど、巻末の統計の表を見ても、見やすさっていうのが、やはり2社で比べると、帝国の方が見やすいなっていう印象を受けましたので、帝国の方を推したいと思います。

(議長)

■■■■委員、よろしくお願いします。

(委員)

はい私も帝国を推したいと思います。やはり、教科書と合わせて活用することで、学習効果が高まるように配慮されている、地図やグラフなど適切に配列されているということがあります。それと、自然産業人口の主題図を共通して設けて学習する、地域の概念をとらえるなど、社会科教科書と連携できるように工夫されているというのがあります。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員よろしくお願いします。

(委員)

私も帝国を推したいと思います。調査員の報告にもあったように、観点2の1番目の小学校との関連を意識されている部分や、あと、先ほどもありましたが、環境問題、防災、安全に関する資料が豊富に掲載されている部分とか、あと、世界地図の部分でも、日本との結びつきを変えていたり、そういった部分で多面的、多角的に考えることができるものになってるかなというふうに感じたので、帝国を推したいと思います。

(議長)

続いて、■■■■委員、よろしくお願いします。

(議長)

私も帝国を推薦したいと思います。これも地図の作り方的には、各社あんまり変わってきてないんですけど、やはり見やすさの部分であったりとか、例えば、同じ東アジアのページを開いてみても、縮尺の書いてある場所だったりとか、ものさしの表現をされてる場所だったり、非常にパッと見て、すぐ目に入るところにあたりとか、あとはそういう色遣いのものも、非常に帝国の方が見やすいっていいことで。一緒にずっと見てみたいなというふうな意欲が、子供たちの中に出てくるのはどっちかっていうと、帝国の方かなと思いますので、推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございます。続いて、■■■■委員お願いします。

(委員)

私も帝国を推薦したいと思います。理由としましては、SDGs、それに関連して、環境問題、防災、安全に関する資料が掲載され、現代の課題に対して、探求できるような工夫がされてるっていいことと、先ほどと同じように、教育関係者からの熱い推薦がありましたので、そこを推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いします。

(委員)

私も帝国書院を推します。小学校との違いを見てみるとですね、アジアとかそういったことの、あるいは、また日本で

あれば、各地方の地図があつて、その後ろにですね、それぞれの資料があるんですが、とてもこの資料が豊富なんです。その州、あるいはその地域に関する情報ということで、情報量がとてもすごい多いので、また、地図自体の見方については、小学校の方から、同じメーカーということで、扱いは慣れてると思いますので、その発展的な形で、この帝国さんの方を使うと、子供たちの方がより使いやすいかなと思いました。以上です。

(議長)

ありがとうございます。では私ですけれども、私も帝国を推したいと思います。調査員の報告の中に、主題図やグラフなどのタイトルの横に、SDGsの項目があるということで、他の社もSDGsのものがあはするんですけれども、その地図帳を通して、このSDGsを考えようっていうところが、結構、明確だったなって。これからの問題ということで、帝国さんがいいのかなと思いました。なので、全員が帝国書院を選定したいという形になっております。

(議長)

地図に関してですけれども、帝国と東書の2社ありましたが、帝国を選定したいと思います。選定の理由としては、小学校の既習事項を活用し、段階的に地理的技能を高めることができるということ、それから先ほど、教科書も、地理の教科書も帝国と決まりましたので、併用して活用できる。それから、環境問題、防災、安全に関する資料が掲載され現代の課題に対して探求できるような工夫がされている。あと、見やすい、比べてですね。あと世界地図で、日本との結びつき、多面的、多角的に考えるきっかけになるような工夫がされている、縮尺の物差しが見える位置に、ぱっと見える位置にある。資料が豊富で情報量も多いということでした。それで選定してよろしいでしょうか。ということで地図は帝国に選定したいと思います。以上で、地理と地図に関しての協議を終えたいと思います。

協議9 社会(歴史的分野)

(議長)

では続きまして、歴史について協議していきたいと思います。歴史は9社ありました。日文、帝国、東書、教出、学び舎、山川、自由社、育鵬社、令書ということで、9社ありましたが、この9社について、昨日調査員による調査研究報告が行われました。報告は、7ページになります。では、 委員の方からよろしくお願いいたします。

(委員)

自分の方は帝国の方を推したいと思います。その理由としましては、節の問いが設定されておりますが、節の1は、何もですね設定されてなくて、そこから対話を通してですね、話し合いをしながら、節の2以降で、解決に導いていくと、自分たちで問いを出して、それから節の2項で解決につくように設定されてるところが、主体的に学ぶところに繋がっていくんじゃないかなということで、観点2、進んで対話できるような配慮がありますので、そこができるんじゃないかなということで、思いました。あと1点は、同一の資料が判別しやすいように、グレーで囲まれて、インクルーシブ教育への配慮もなされているということで、帝国を推したいと思います。以上です。

(議長)

委員、よろしくお願いします。

(委員)

私も帝国を推薦します。理由としては、個別最適な学びを支援するために、コンテンツ、動画や思考ツールの活用できるような工夫がされているので、帝国を推薦いたします。

(議長)

続いて、 委員お願いいたします。

(委員)

私も帝国を推したいと思います。昨日、調査員の方から、プレゼンがあつたんですけど、特に近代のところなんですけど、帝国でいうと225ページで、日文の方でいうと、213ページなんですけど、ここがすごく象徴的に違ってたんですが、帝国の方は、タイムトラベルでちょっとそのときの期時代の背景を理解してみようとか、資料の提示の仕方ものもちろん素晴らしいなと思ったんですけど、何よりも、問いに対して、考察しよう、考えてみようっていう言い方で、その答えるじゃなくて、考えてみようっていうような問いかけになっていると。それに対して、日文の方は、このまとめのところで、問いに対する答えは何ですかという形で、知識を問うっていう面がまだ強いっていうことで、やはり主体的に学んでいくっていう中で、歴史の解釈っていうのも、どんどん変わって、流動的なところもありますので、そういうところもの

に、不確定なことに、自分の考えをまとめていくっていう、そういう力を育むっていうところから考えると、やはり答えを考えるっていうこと考えるっていうより、自分なりの考えを考察、表現していくっていう、その力を育む意図、すごくこの教科書から伝わったので帝国さんの方に推薦したいと思います。

(委員)

委員をお願いします。

(委員)

はい、私も帝国を推します。子供たちが多面的、多角的に考えたり表現したりという、その部分で、国、地域で活躍した人々、様々な立場の人々、人物コラボで紹介するなど、多面的、多角的に日本の歴史をとらえる工夫がされているなあと思います。それと、沖縄琉球の歴史の内容について、昨日、委員からありましたが、違和感なく伝えられているものなのかなという感じです。以上です。

(議長)

ありがとうございました。委員をお願いします。

(委員)

はい。私も帝国を推したいと思います。私は、多面的、多角的に考えたり、表現したりするっていう、探求していく、単元構成の部分に着目してみていたんですけど。帝国、日文、東書、いずれにもそれは、はっきりとあったのですが、特に帝国の方が、とても見やすく、見通しも立てやすく、問いの方も、プレゼンのところであった付箋紙 5 番 63 ページのところでもあるように、各節のものも、全部そのページにあたり。次のページには、どの単元でもそうみたいなんですけども、タイムトラベルとか入れて、何か違う目線で見せたりとかですね。そういう部分で、すごく興味を引く楽しみになるような工夫がされてるなっていうところと、プラスで、先ほどもありましたが、個別最適な学びということで、QR コンテンツがすごく充実しているというプレゼンもあり、あと単元別メニューで、生徒が探しやすいというふうにも補足で、昨日おっしゃってましたので、すごくいいなと思いました。以上です。

(議長)

はい。ありがとうございました。委員をお願いいたします。

(委員)

はい。私も帝国書院の方を推薦したいなと思います。やはりですね、同じところを、ページを比較するように見ているんですけども、本当に帝国書院が見やすいんですよね。本当にシンプルな言葉ですけど。同じ仏教のですね、踊念仏の写真とかを比べてみても、帝国書院の方が鮮やかに映っていますし、そこら辺の方がやっぱり見やすいですし、とっつきやすい形になっている。あとですね、同じように年表とかが、仏教の流れのものを載ってるんですけど、75 ページのどこですかね。それぞれの仏教の中心人物、法然さんとか、親鸞さん、そういったところの年表のものに、細かいことですけど、それぞれの出来事、近くの出来事のところにページ番号が打たれてたりとかするんですよね。例えば、源頼朝が征夷大将軍になる、ページ 70 って書かれてると、そこにまた戻ってちょっと復習してみようかなと思ってみたいとかですね、そういったところも細やかな繋がりを作ってるなということで、やはり帝国書院の方が少し多いのかなというふうに感じましたので、そこを推薦したいなと思います。以上です。

(議長)

委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も皆さんと同じように、帝国を推薦したいと思います。意見は皆さんと同じように、いろんな意見がありますが、この歴史が苦手な子たちも、その支援が QR コンテンツがしっかりしていて、動画とか、思考ツールが、工夫されているところで、私は推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。委員をお願いいたします。

(委員)

はい。私の方も帝国書院の方を推薦いたします。まず小学校との関わりということで見てみると、先ほどのあったんですが、ページの下の方にですね、しっかり小学校との繋がりを記されている。マークが入っていきまして、それとまたもう一つはですね、小学校の社会科から歴史分野ということになると、興味がですね、子供たちの興味をひくような、編集にされていて、最初はイラストの方で、案内されているんですが、そのあと、調べ方とか考え方ということになると、これが実際の中学生在が調べてる所、様子をですね、写真にいくつか見ることができるんですね。そうすることによって、子供と小学生から中学生に上がった子供たちは、こんなふうにしてやればいいんだな、というような形でですね、調べ方など、そういったことを、この写真を通して学ぶことができるんじゃないのかなと思いました。それと、この教科書の中にはですね、琉球王国時代の特徴のものと、そしてまたもう一つは、沖縄戦ということで、沖縄に関することが2ヶ所の方に出ているもんですから、子供たちもそれを見て、また自分たちが住んでることと比較できるのかなということが感じました。以上です。

(議長)

ありがとうございました。では私ですけれども、私も帝国を推薦します。選定理由は、三つあります。今回、何度もお話出てますが、この見方・考え方っていうのが、どの教科にも大事って言うんですけど、結構この辺がいつもぶれるんですけども。帝国さんの場合、他の教科書もきちんとその見方・考え方ということで、ちゃんとあったんですけども、帝国さんの場合は、この学習の振り返りのところで、例えばその見方、比較するとか、相互関連とか、時代というところの、ちゃんと視点を入れて、こういうふうに見よう、こういうふうにしようみたいなのが明確なんです。やはりこういう見方・考え方にすごく特化してるな、というところがありました。それから2点目は、昨日調査員が行った時に。このタイムトラベルっていうところで、世界版ですね。同時に何が起こってるっていうのを紹介している。これ、高校生は年表でやるんですけども、それを中学生は、同時期に何が起こっているっていうのがわかるようにしていたのも、とてもよかったです。それから先ほど、3つ目なんですけれども、委員が言っていた見やすいのは、多分特別支援の子供たちも見やすいと思います。私も、どの教科書も見たんですけど、見やすいです。やはりこの枠がとられてるとか、色合いとか、この辺はインクルーシブに非常に対応しているのかなと思いましたので、この3点で帝国の方を推薦したいなと思います。以上です。

(議長)

歴史が一番多くて、日文、帝国、東書、教出、学び舎、山川、自由社、育鵬社、令書と9社ありましたが、全員一致で帝国と、選定いたしました。理由としては、節の問いが、章と節がありましたけれども、ちゃんと節の問いが設定されていて、節の1が何も設定されてないけど、そこから問いを生み出して、2節以降の解決を導くように設定されている、そして同一の資料が判別しやすいようグレーで囲むなど、インクルーシブへの対応が行われている、個別最適な学びを支援するためのQRコンテンツが、それからコンテンツからの動画や思考ツールの活用ができる工夫がされている、タイムトラベルや問いに対して考えてみようという問いかけになっている、地域で活躍した人など、様々な立場の人物コラムを紹介するなど、多面的、多角的な、日本の歴史をとらえる工夫がされている、琉球の歴史について2点出ましたね。そして、他の同じページ、同じ題材を扱った場合、見比べても見やすかった。そして、年表にページ番号が書かれて、振り返るところができていた。それからページの下に、小学生との繋がりを示していることがあるなど、選定理由としてありましたが、帝国に選定したいと思いますが、よろしいでしょうか。はい。全員一致で帝国といたします。以上です。お疲れ様でした。これで歴史の教科書の方の協議は終わりたいと思います。

協議 10 社会(公民的分野)

(議長)

続きまして、公民について協議したいと思います。公民は、東書、帝国、日文、教出、育鵬社、自由社の6社ありました。この6社すべてについて、調査員による調査研究の報告が昨日行われました。そして、報告書に関しては、12ページになります。では、皆様が推薦する発行者はどれになるかお知らせください。では、 委員よろしくお願ひします。

(委員)

私の方は日文の方を推したいと思います。その理由としましては、様々な考えを呼び起こす資料を掲載して、多面的、多角的な視野を広げさせる学習内容を掲載しているということ。それから、各編に初めの段階で、学習のはじめにという場面を掲載して、身近な例を漫画で示してですね、子供たちが学習に興味関心を高めて入りやすいように工夫してる点と、それから、それをもとに見通しを持つということによってできるようになっております。あともう1点は、明日に向かってということで、常に社会参画につなげるような内容になっているということで、公民としてはいいんじゃないかな

と。最後なんです、小学校で何を学んで、小学校との結びつきとか、公民の方につながるの方も最後の方で掲載したので、この日文の方がいいかなということで、推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私も日文をします。生徒たちが主役になった漫画によって、各章の学習関心を持たせるような内容となっていたので、日文を推薦いたします。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私は帝国を推したいと思います。各社この学びを、社会参加に向けて、子供たちの意識を持っていくっていうことに、いろいろ工夫はされています。私の方は特に、今、どの出版社も取り上げていた契約について、ちょっとこう、見比べてみたんですけど、帝国と東京書籍の方は、特に18歳へのステップっていうことで、成人に向かって、っていう形で、トピックとして契約をあげていますので。日文の方は、明日に向かってっていう形で、トピックとして出しています。ちょっと言うんですね、帝国の方は128ページで、東京書籍は138ページ。日文の方は138ページ。他のもいまいしょうか。教育出版が148ページ、そして育鵬社は126ページで、これはトピックとしては取り上げてはいません。育鵬社は、それぞれ契約の取り扱いを見てるんですけど、日文、東京書籍の方は、契約の流れですよね。クーリングオフができますよとか、いつから契約が成立しますよっていうような、方法論的なことが中心になっているんですけど。帝国、光村、教育出版の方は、契約って何か、世の中は契約によって、成り立ってるんだよっていう、契約が、そもそも何なのか、ということを考えさせる、それから、契約をしたら義務が生じるんだよっていうことを、しっかりと書かれてるっていうところが、この義務と責任っていうところを、しっかり伝えようとしてるのが、教育出版と帝国さんでした。帝国さんの方は、もう特に、見開き1ページで、今までもそうなんですけど、視覚的に、配置がすごく上手で、パッと見て、とらえやすいっていう面が、やはり素晴らしいなあとと思っています。そういうこともありまして、他にも選挙のこととかいろいろあったんですけど、帝国の方は、選挙のトピックスの取り上げ方も、選挙として取り上げるのではなくて、メディアリテラシーとして取り上げて、この情報をどうとらえるのかっていうようなことを、選挙への参加っていうことに結びつけていくっていうような、それもすごく社会に出た時に、すぐに大人として自覚してないといけないような、考え方っていう方法ではなくて、考え方っていうのを伝えようとしているっていうところが、すごく細やかだなあっていうふうに感じました。いろいろありますけれど、帝国さんの方を、一応私としては推したいなと。

(議長)

はい。ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい、私もですね、日文さん、東書さん、帝国さん、この3つで迷いまして、今比較してみました。例えば、持続可能なというところで、東書さんは3、8ページ、日文さんは14ページ、帝国さんは4ページというところで、大体キーワードも似てますし、特に日文さんと、帝国さんの右下の確認とか、表現、説明は似てる部分があるというところで、何で決めたか、というんですね、やはり、見方・考え方。現代社会の見方・考え方、あるいは、この思考ツール。これをしっかり最初で示しておいて、子供たちにしっかり多面的、多角的に考えさせるようなことを示しているので、どの單元においても、それが活用できて、子供たちにとっていいんじゃないかな、というところで帝国さんを推します。以上です。

(議長)

はい。ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私も、日文、東書、帝国で迷ったので、昨日のプレゼンターが日文を推していたのもあったので、比べたんですけども。結論的には帝国を推したいと思います。その中で、入口というか、探求的に学ぶとか、探求をさせていく入口の部分で、子供たちの姿に、漫画、アニメ、イラストで入りやすくしてるっていう工夫があるという部分があったんですけども。その入口を注目して見たときに、帝国さんの方は、街中を入れて、この車社会の部分から拾い、俯瞰して見て、そ

こからいろんな部分に着目していくっていうような流れの、視点の映し方が、すごく探求的な部分で、いいなというふうに感じました。あと、この18歳のステップだったり、18歳の準備だったりっていう部分でも、すごく、詳しくやっていたし、いろんなちょっと仕掛けがあるなというふうに感じたので、帝国さんを推したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。続いて、 委員お願いいたします。

(議長)

はい。私も日文さん、東書さん、帝国さんで、いろいろ並べてみて、見てるんですけども。調査員の方から日文さんの利点、メリット等、結構聞いてみても、少し私の中では、ちょっと疑問があったりしたので。いろいろまた再度、考えてみたんですけど。例えば、学校の中の生活に即したものを取り入れてるとか、あとは、日文188ページのところに、現代の国際社会と課題ってところで、漫画を取り入れて入りやすくしてるとかっていうところはあるんですけど。実際問題は公民って、世界の今の現代の流れだったりとか、それぞれの権利主張だったりとか、そういうもっと、リアリティーの高いものを学ぶ教科なので、果たしてこれでいいのかなっていうところを、私としてはすごく思ったところがですね。入りとしてはいいかもしれないですけど、実際、これから学びを深めていったときに、リアリティーのある社会と、差がありすぎて、そしてちょっとギャップを将来的に感じないかなっていうところは、非常に感じたんですよ。なので、そこら辺の部分を考えると、やっぱり帝国さんの方がすごく、そこに近いのかなあというところ。例えば、平等権のところ私は見てるんですけど、帝国さんだと、他の2社に比べてですね、インクルージョンの話が入ったり、ダイバーシティの文言が入ったり、あとはヘイトスピーチの問題が取り上げられてたり、他の2社に比べると、もっと、より多くの課題が、この見開き2ページの中に、見開き1ページの中に、この非常に組み込まれていて。これが現実にはすごく即してる、今の状態を表してるなというところもあったので、私としては帝国を推薦したいなと思います。以上です。

(議長)

続いて、 委員お願いいたします。

(委員)

私は日文を推薦したいと思います。調査員の報告の方の中で、いろんな学習の見直し、見直し確認、表現、振り返りができるような内容になっているっていうところと、あと、教科書の入るところで、公民とはこういうことを学びます、みたいな説明の中で、とても易しい入り方かなあということを感じて、私はそこを推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございます。続いて、 委員お願いします。

(委員)

はい。私の方は、帝国書院を推します。まず私の方も、すべて小学校からとの繋ぎっていうことで、見てるんですけども。これまで見たような形でですね。小学校の繋ぎっていうのがページ下の方に掲示されているっていうのもありますが、あと、写真とイラストの方が豊富でありまして、それを活用することに、主体的でまた対話的の学びというところに、持っていくことができるんじゃないかなと。あと、節のですね、入り方の方で、4コマ漫画とかですね、写真とか、そういったのが入って、答えを出すんじゃない、困っていますというところで止まって、この困り感はじゃあどうするんだろうということで、子供たちの方に考えさせるというようなですね、工夫ができてるといのが見えたので、私の方は、帝国さんを推します。

(議長)

ありがとうございました。では、私ですけども。私も帝国、それから東京書籍、日文というふうに見ていました。そうですね。本当に、本当に迷ったんですけども、私も先ほどから話しているように、見方・考え方で、まず判断した場合に、この日文さんは結構、1字1字で、そういう見方・考え方っていうのを提示しているところがあるんですけども。実はそれはすごく大事なことはあるんですが、何ていうかね。帝国さんはその文言ですね。見方・考え方の公平でしたっけね、効率とか、対立とか、合意とか、構成とかいう、この言葉でやっていってるんですけど。日文さんの場合は、結構、もっと狭く見ていて、ある意味ちょっと教えてしまっているなというところがあった部分があったので、結論が遅くなりましたけれども、帝国さんがいいなあと考えております。同じように、見方・考え方は出ているんですけども、ちょっと一部の方が、狭くやってしまっているなあ、教えちゃってるなというところがあったので、もっと考えさせたいなというところでやりました。

(議長)

過半数の5以上で6票ですね。帝国さんにはなっているんですが、何か付け加えとかありますか。一つ、ごめんなさい、少しこら辺、確認したいんですけど。入り方で少し差があったかなというところがあるんですね。何て言うんですかね。漫画というか、いや、それからまた、身近なところからの問題なのか、また社会的なのか、街づくりなのかっていうところで、その位のところで少し分かれた気がしますけど、どうでしょう。感じましたでしょうか。その部分で、どうでしょうかね。何か意見があるかといいますか。

(委員)

だから、昨日、調査員の方の報告聞きながらも、私ちよつと質問してみたんですけども。結構調査員の方の意見とかちよつと感じたのは、割と何かこう、この日文の方が教えやすいっていうふうな言い方をされていて。私は、逆に質問として、教材研究としてやりやすいのは、じゃあどっちですかっていう話を、逆に質問したんですけど。それを踏まえて、やっぱり日文さんの方が、教材研究しやすい、割と作りやすい、みたいな感じをされていて。だからそこはなんか、ちよつと言い方悪いかもしれないけど、安易な考えに近いのかなと、僕は思ったんですけども。だから難しい、多分帝国さんは結構情報量も多いし、中身が結構深いんで難しいですよ。教材研究する側にとってみると、リアリティーがあるものをしてしっかり教えていかないと、この子供たちは中学校、高校卒業した後に、もうすごい荒波の中に出ていくわけで、実際問題、その乖離があると非常に厳しい。だから、そこら辺は、教師側もこの部分はしっかり妥協せず、教材研究をちよつと深めていくっていう努力をして欲しいなっていうところも、ちよつと私、気持ちの中で思ってたところだったので、そこもちよつと理由としてはあります。

(議長)

ありがとうございます。昨日の調査員のお話は、どちらかというと、公民と何か身近なものをちよつと結びつけるような、公民という教科を結びつけるための、みたいな形なのが、すごく出てたような気がしますけど。ここで、また振って申し訳ないんですけど、中学の実態としてですね。どうですかね。今言うような、社会情勢とか、その社会を見るって言った時に、やはり身近な問題から入っていくのか、それとも本当に、今言っていた、現実というか、今ある状況みたいなものから入るのも、中学生は耐えうるって、おかしいんですけど、というところは、発達段階としてですね、どうな感じがありますでしょうか。ちよつと難しいですか。じゃあ、[REDACTED]委員お願いします。

(委員)

確認したいんですけど、公民って、中三、14歳でしたっけ。ですよ、14歳、はい。であるならば、もう、この身近なもの、学校生活からっていうのは、もっと、一年生のときぐらいだと、またいいかもしれないんですけども、中三で、1年間かけてそこからスタートっていうよりは、やはり社会に対する俯瞰した状態から、そこから、この問題を見いだしていくっていうような流れで、持っていく形の方が多いのではないかな。私は社会科ではないんですけども、理科でも、自然現象から、身近なものと結びつけたりとかっていうふうな、大きな部分から視点を与えて、下の問題点を見つけたりとかがっていうふうな形で、視点を与えて、問題点だからこう引っ張っていくっていう流れで探求させてるので。うん。私はそういうふうな形で、やったってことですね。

(議長)

公民は、3年の途中からって言ってましたね、ですよ。3年最初じゃなくて、2年、3年の途中までは歴史から始まって、そこからって言ってましたね。発達段階的には、少しいうところですね。はい、[REDACTED]委員。

(委員)

アンケートの方も、教員の方々、帝国の方がご意見が多いみたいなので。教員の側から見て、現場から見て、帝国、少し難しいのかもしれないですけど、教えやすい、使いやすいついていう、形で書かれてるので。それほど教材として難しくはないのかなあっていうふうに思っています。

(議長)

はい。いろいろ出ましたけど、ちよつと話を聞いてて、その部分が多分、分かれぎわだったんですけど。よろしいですか。3名の方々も、一応票決になると6票になった数なので、帝国ってなることに関して、よろしいでしょうか。異議はないですか。はい。わかりました。では、公民に関してですけれども、公民は6社ありました。東書、帝国、日文、教出、自由社、育鵬社とありましたけれども、帝国の方に推薦したいと思います。なぜ帝国かというところでは、18歳のところのテーマが多く語られていたかなと思います。契約だったり、メディアリテラシー、それから、視覚的配置が上手、それから社会に出たときに自覚していかないといけない考え方を伝えようとしているんじゃないか、それから見方・考え

方、思考ツール、多面的、多角的な考え方を示している、そして、最初の入りですね、街中のイラストで探求的な考えさせている、いろんな仕掛けがある、また、インクルージョン、ヘイトスピーチなどの今の問題等ですね、掲げている、それから小学校のつなぎのページが下にある、写真やイラストが豊富で、主体的、対話的な学びを促すものになっているんじゃないかなあということと、あとアンケート、先生方のアンケートからも多かったということになりました。では、帝国の選定をしたいと思います。よろしいですか。はい。以上で公民の協議を終わりたいと思います。

協議 11 技術・家庭(技術分野)

(議長)

では引き続き、協議していきたいと思いますが、次は、技術と家庭分野を続けて行います。技術と家庭分野で東書、開隆堂、教図というところで、3社の発行者すべてについて、調査員による調査研究報告がありました。そして報告書は34ページになりますが、また、ご意見よろしく願いいたします。■■■■委員の方から、よろしく願いいたします。

(委員)

自分の方は東書の方を推薦したいと思います。この東書の方ですね、ガイダンスの方が、とてもインパクトがありました。12ページの方からですね、工夫創造の力が技術を支えるということで、いろんな事例があって、その次に、技術は豊か、夢をかなえるためにあると、そういった形で書かれています。こういったことに繋がりますよ、ということと、それから3番目は技術の見方・考え方ということで提示されて、この見方・考え方も四つの方向からですね、電球が真ん中にあっても、これ興味をするガイダンスの方法だなということでですね、感じました。子供たちも、それを見ながらですね、また自分たちで未来を作るために、技術を勉強していくんだよと、技術によって問題解決性を図っていく、よりよい社会を作っていくんだなということでですね、最後に多分わかりやすく漫画の方で提示されて、他の発行者の方でもありますね、ガイダンスがありますが、この最初のものを見たときに、技術をやってみたいなという感じがするんじゃないかな、ということで、自分の方は、この東京書籍の方を推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も東書を推します。理由としては、問題解決の計画の学習場面において、独自のシミュレーションソフト等を活用して、学習が充実するように工夫されているので、東書を推薦します。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も東京書籍の方を推したいと思います。どの教科書も、技術的なもの、問いの立て方や考え方っていうのをしっかり伝えていまして、これから未来に向けて、技術や工学がどういうふうな役割があるのかということ、教えるような形になっています。特に東京書籍がいいなと思ったのは、この章の一番最初の見開きのところで、イラストもあるんですけど、製品があって、デザインをどうしたいのか、費用はどうするのかという考え、製品を何か作ろうって思ったときに、考えないといけないことをわかりやすく、書かれているっていうことがありまして。こういうことを技術者が考えて、諸製品っていうのは生まれていくんだなっていうのが、すごくわかりやすく、プレゼンされているのかなあと感じました。そのような理由で、東京書籍の方を推したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。続いて■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい、私はですね、開隆堂と東書で迷ったんですけど、問題解決の流れ、問題解決のプロセスがそれぞれ開隆堂は16ページ、東書は20ページからあるんですけど。この問題解決学習の充実というところを見たときに、見やすいなというところ、PDCAで書かれて見やすいなというのがあったので、それが理由の一つ。もう一つはですね、デジタルコンテンツが豊富であるというところから、東書を推薦させていただきます。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も東書を推したいと思います。理由は、調査員からの報告にもありましたが、デジタルコンテンツが充実していることとか、あとは問題解決、計画の学習場面においての、独自のシミュレーションソフトを活用しているというところで、この1人1台端末を積極的に使って欲しい。特に技術の部分において、いいかなというところと、あと、楽しみにしているだろう、何かを作ったりとか、あと栽培したりする、この基本の部分で、すごく進めやすい。例えば、40ページの方から、テックラボ、政策の基本的技術のところ、手書き切断、部品加工組み立て仕上げていうふうに、上の方ですね、今ここをやっているよ、という形で、こういう流れを示している部分から、一人一人、おそらく作業していく中で、個人の速さにですね、そういうのも、自分の中、自分なりに進めていけるようなものになっていたりしてるのかな、というふうに授業をイメージした中で、すごく使いやすいのではないかな、というふうに、特に思ったので、推します。以上です。

(議長)

ありがとうございました。続きまして、■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も開隆堂さんもいいなあとと思いながら、見ていたんですが、東書も二つ見てたんですけども。もともと昨日の、調査員の報告のときに、僕も新しい視点で学ばせてもらったなと思ったのが技術って、結構、物を作るってことが中心だから、それだけで終わってる感じだったんですけど。ちゃんとこの観点1のところに書かれてるような、技術の見方・考え方、そのもとにして問題解決学習が図られていくってどういうことだろう、っていうのをちゃんと説明をいただいた上で、やっぱ見ていくと、先ほど■■■■委員がおっしゃってた、東書の19ページの見開きのところだと、社会、安全、環境、経済性、それぞれによって、こういう見方で、技術的な物の考え方を働かせて、問題解決していくんだよっていうところが、すごくわかりやすく東書の方が作られているな、というところと、最近であれば、もうプログラミングとか、そういうネットの部分の結構、技術的なことを学んでいくことも重要視されてきてるんですけど、そこもかなり詳しく、いろんな視点で書かれてるなっていうところもあったので、そこがすごく、昨日、調査員が説明していただいた観点に沿ってみると、東書の方が少し優れているのかな、というところで東書を推薦したいなと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も東書の方を推薦します。皆さんと同じ様に、入り方がとても入りやすい教科書になっているのかなあっていうことと、あと、技術って本当に物を作っていくっていう考え方があったんですが、それプラス、植物を育てたり、また、畜産のところも触れながら、社会について学んでいくっていうことも書かれているところで、東書の方を選びました。以上です。

(議長)

はい。ありがとうございます。続いて、■■■■委員よろしくお願いします。

(委員)

私の方も東京書籍を選びました。まず入り方、小学校の図画工作から技術・家庭ということで、子供たちにとって、どのような教科なんだろうというですね。それを導入部分が充実していて、子供たちに、こんなことをやるんだよということの導き、そうすることによって、子供たちが楽しいんだなあということ、まず感じ、そしてそれから作業とかそういったものに入って、問題解決に繋がっていくというようなですね、一連の流れができてるのかなということも感じました。あと、何よりも、思考ツールとか動画コンテンツですね、それが充実してるっていうのが、子供たちがいろんな形で、学びやすいのかなということを感じました。以上です。

(議長)

ありがとうございました。私からなんですけれども、私も東京書籍さんの方を推したいと思います。開隆堂さんと非常に迷いました。先ほどから出てる技術っていうところのもので、昨日も言ってたんですけど、この問題から、課題を見つ

けて、その解決の仕方って、本当に PDCA の部分がすごく、技術家庭ではその志向があるんだなと思ったときには、実は、開隆堂さんのガイダンスのペーパーナイフのところはすごくストンと落ちたんですけども、でも、先ほどから出てるこのガイダンスのところの、4つの視点であるこの電球のところですね、あそこのホーム、すごくいいのと、あと私の中で決定打は、今回もう一つの視点がありますけれども、動画等ですね、今回多かったのが、一つ目は見方・考え方でしたけど、2点目に上がっているのが、結構この ICT というか、コンテンツの部分だったんですけど。そこが、昨日のお話の中で、動く、試せるっていうところの試せるが、他と違うっていうところが出ていて、この試行錯誤っていうところのものでは、すごくいいコンテンツなんだなと思ったので、東京書籍さんを推したいと思います。

(議長)

ということで、全員が東京書籍さんの技術家庭の技術の分野の教科書を選定ということになりますが、大丈夫でしょうか。はい。もう一度確認したいと思います。開隆堂、教育図書、それから東京書籍さんの3つがありましたけれども、東書に選定したいと思います。理由としては、ガイダンスにおいて意欲を高める工夫、PDCA ですね、先ほどから出てる、あと問題解決の設計、計画、学習場面において、独自のシミュレーションソフトがある、章の最初の見開きで、考えてないといけないことをわかりやすくプレゼンされている。それから、この技術家庭科の問題解決に関して、イラストを活用してわかりやすく表現している。デジタルコンテンツが豊富と、生徒が自分なりに使いやすい作りができるんじゃないか。また植物の方ね、入りやすい内容ということがありましたので。では、技術分野においては東書を選定することいたします。以上で、技術の協議を終わりたいと思います。ありがとうございます。

協議 12 技術・家庭(家庭分野)

(議長)

次は家庭科に行きたいと思います。家庭は、東書、教育図書、開隆堂、同じく3社からのものが、昨日、調査報告がありました。報告書の36ページをご覧ください。それでは、■■■■委員の方からよろしくお願いいたします。

(委員)

私の方は東書の方を推したいと思います。なぜかというと、既習事項の活用とか、他教科とのリンクがあって、小学校の学習の振り返りを踏まえて、教科横断的に学習に活用できるという点が、とても魅力的だなと思いました。それと、生活の課題と実践においては、問題解決のプロセスに沿って実践できるような方法を、レポートからパワーポイント、新聞など様々な例を提示されてるのがいいかなと思って、東書を推薦したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も同じく東書を推します。他教科とのリンクがあり、小学校の学習の振り返りや、教科の横断的な学習に活用されているので、東書をします。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も東京書籍を推したいと思います。技術と分野と、教科書をそろえた方がいいかなっていうような考えもあるんですけど。特にですね、6ページなんですけれど、家庭分野の学習の進め方っていうところでですね、下に思考ツールの活用の仕方っていうのがとても、わかりやすく提示されていて、また授業の進め方、課題解決に向けての進め方っていうのも、すごくわかりやすく提示されていていいです。すごくいいなと思いました。そのような理由で、東京書籍の方がいいのかなあっていうふうに考えています。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい、私も東書の方を推したいと思います。理由としましては、技術と同じようにですね、課題解決の部分で6ページの家庭分野の学習の進め方、課題、計画、実践、評価、改善、次の課題にということで、わかりやすく説明してい

るのと、それと、思考ツール、これがあるのっていうのは大きいかなあと思ってます。それともう一つ、デジタルコンテンツの豊富さですね。子供たちの学び、振り返って確認することができるのかなと思ってます。これは余談になるんですけど、沖縄の食事、どう取り扱ってるかなというところで、東書にはヒラヤーチーがあったというところは、子供たちに、ちょっと興味をそそるような内容かなと思ってます。以上です。

(議長)

はい。それでは 〇〇 委員お願いします。

(委員)

はい。私も東書を推したいと思います。理由は、見方として、技術の時も同じだったんですけども、この探求していく中で、入口の部分が、非常に見開きで、入りやすく、見方・考え方も、働かせることも指示していますし、とにかくいろんな手だてが厚いというのが、たくさんのところで見られました。特に、先ほど言いそびれたんですけども、技術でもそうだったんですが、教科横断的な学習の部分が強いと思いますので、その部分、リンクというか、キーワードが要所要所に入っているので、そのあたり非常に魅力的だと感じました。以上です。

(議長)

ありがとうございます。〇〇 委員お願いいたします。

(委員)

はい。私もですね、東京書籍を推薦したいと思います。3社それぞれ見比べてみても、本当にそれぞれ見やすいんですけども、例えば食品と栄養素みたいなのところのページを見てみると、教育図書と、開隆堂さん、それぞれ、単品の食材の写真とか、その説明は書かれていたりとかするんですけど、東京書籍だと、それをカレーライスにしたらどうなるのとか、献立でどうやってつなげるのとか、そういったところが結構書かれてるので。結局、ニンジンだけ食べるわけでもないし、そういう食事を総合的に作っていくってことまで考えて表現してるのは、非常に、実生活に即してるかなっていうところと、あと1点。ちょっと、すごくいいなと思ったのは、それぞれと、その1人、一つ一つの、例えば、肉卵とかですね、乳製品とかの1日の摂取目安が、ちゃんとグラムで書かれている。ちょうど12歳から14歳ぐらいまでの、1日分だよっていうのが書かれてるのは、東京書籍だけなので、そこら辺もですね、すごく細かく、自分はこれぐらい必要なのかっていうところがわかりやすく書かれてるので、子供たちも、そこは自分ごととして考えやすいのかなと思いました。以上です。

(議長)

ありがとうございました。〇〇 委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も東京書籍を推薦したいと思います。理由としては、技術等の使用に、教科書に入りやすいなあっていうところと、また、学ぶところの順序といいますか、そこが、先生方も、子供たちも入っていきやすいのかなっていうところと、あとちょっと、他のところで探しきれなかったんですけど、食品のアレルギーとかっていうものを、詳しく書いてるかなっていうのも、東京書籍さんの方だったので、私は東京書籍を推薦いたします。以上です。

(議長)

ありがとうございました。〇〇 委員お願いいたします。

(委員)

はい。私の方も東京書籍を推薦いたします。まず他教科とのリンクがあるということですね。小学校からの発展を振り返りができるということも含まれて、QRコードをかざすことによって、小学校の時の教科書が映るということで、接続がですね、はっきり見えていくんじゃないかなと。それと、教科書の下ページにですね、生活を生かそうということがありまして、そこで学んだことをですね、自分の言葉でアウトプットすること。そうすることによって自分のものになるのかなあということも感じましたので、私は東京書籍を推したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。私も東京書籍を推薦したいと思います。理由も、もう本当に、ほとんどの委員が仰ってくださった部分と同じなんですけれども。やはり小学校との、このリンクがあるのが見えたりするとか、私どうしても思考ツ

ル、すごく、今回、いいなと思っていて、昨日もあったんですけど 119 ページの考えてみようのところに、レーダーチャートで、どの服がいいのかみたいなの、もう、どこを重視するのかっていうところがあったので、よかったなあと思いました。

(議長)

ということで、全員東京書籍ということになりましたので、よろしいでしょうか。では、今回、東京書籍、教育図書、開隆堂の3つがありましたけれども、東書に選定したいと思います。理由としては、他教科のリンク、小学校の学習の振り返り、教科的な横断の学習ができる。それから、思考ツールとかのわかりやすく使いやすく、書かれている。あと、またデジタルコンテンツが豊富、それから、入り口が見開きなので入りやすい。それから食品や栄養素だけでなく、献立のものが書かれている、また自分に必要な摂取量がある、食品アレルギーについても書かれてあるとありました。それから、昨日ヒラヤーチーの話、すごく面白かったですね、ポーポーとヒラヤーチーの違いがわからないのでっていう、このヒラヤーチーがおやつとして取り扱われてるっていうのもありました。では、家庭科分野については、東京書籍を選定するいたします。これで、技術分野、家庭分野の協議を終わりたいと思います。お疲れ様でした。

協議 13 保健体育

(議長)

続いては、保健体育について協議したいと思います。昨日、保健体育に関しては、東書、大日本、大修館、学研の4つの発行者すべてについて、調査員による調査研究の報告が行われました。報告書に関しては 31 ページになります。では、皆様が推薦することについて、意見をよろしくをお願いします。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。よろしくお願いします。自分の方は学研の方を推薦したいと思います。まず、学研の方の教科書の中で、データでいろいろ分析をしていて、運動や食事、睡眠とかですね、そういったものをきめ細かに、掲載されてるということと、それから、お互いに関わり合って生きる私達ですよということで、健康と安全、防災、それから、環境の方もそう、それから運動、スポーツをやっていくという形ですね、変更のカメラを作っていくということで示されていて、授業の流し方もですね、教科書の使い方とか、そういうのも含めてですね、ウオームアップ、短時間で課題ができる課題が見つけられるように、学習の組み立てをしてると、マップをして、エクササイズをして、それから学んだことを、これからの生活に生かすということの項立てをしております。学習方法についても、様々な学習方法が提示されてて、自分自身でも学べるような、教科書の方になって、最終的には何が目的なのかということ、よりよく生きるためにはどうしたらいいのかということで、自分自身で課題を見つけてまた解決する力を養っていくという形に、流れになってたので、学研の方を推したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も学研を推します。理由としては各時間の冒頭に、ウオームアップを設け、興味関心を高め、また、学習課題を自ら発見できるようにし、主体的な学びに繋がるようにしているので、学研を推薦いたします。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も学研を推したいと思います。それぞれ、今日的な課題を取り上げてはいるんですけど、どこの教科書会社も、特に私が注目したのは、学研の方、ストレス対処っていうことで、学研だと 60 ページになるんですけど、かなり細かくリラクゼーションの仕方をいろいろ提示していて、自分がどういうやり方でリラクゼーションができるのか、また心が追い詰められたときに、どういうところに相談窓口があるのかっていうところまで、子供自身が自分で対処できる方法っていうのを、しっかり伝えようっていうことが、丁寧に uptake されてるっていうこと。あと、学研の 100 ページなんですけれども、これ薬物のところなんですけれども、どうやって友達から誘われたときにということを、ロールプレイングでやってみようっていうようなことで、学びになっているっていうところですね。それぞれまず、実生活で、実際、子供たちが、現時点でも直面しそうな、課題について、自分が、何ができるのかっていうことを、自分自身で問題解決ができるっていう、方法を伝えようとしているっていうところが、すごく丁寧に、かかれてるなあというふうに感じました。学研を推した

と思います。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も学研を推したいと思います。学習した内容をどう実生活に発展させていくのか、あるいは、どう実生活に結びつけていくのか、そういったところを考えたところ、どの出版社にもですね、例えば、掘り下げるとか、活用して深めようとか、広げるとか、特に学研の学び方が、右端にですね、載ってるんですけど、特に学研はですね、見方・考え方が唯一あるということが、大きいかなと思ってます。という理由から学研をしたいと思います。

(議長)

ありがとうございました。■■■■お願いいたします。

(委員)

はい。私も学研を推したいと思いますが、東書とも迷いました。東書には、思考ツールがあつたりとか、いろいろ魅力的な部分も、この扱っている題材を探究する中で、いいなと思ったんですが。学研の方は、エクササイズとかが豊富にあっても、なんだろう、体育、保健体育というイメージもあって、アクティブにというか、かなり授業の中で動きながら、活動的なイメージができるような工夫がされてるなということと、あとその学びを生かすという部分で、正解が一つに定まらないような課題を、随時に設けて話し合いを促すという報告もありましたし、確認するとそうだなと思いましたので、学研の方を推したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。続いて■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も学研を推薦したいなと思います。学研さんですね結構、他社に比べると、一歩先に進んでたり一歩踏み込んで、内容の作り方をしているなと思います。特に薬物のところとかもですね、他社も書かれてはいるんですけど、学研さん自体がその薬物のきっかけって何、とかですね、そういう、個人の要因も結構強く出るものだよとかですね、そういったときにどうしたらいいのかっていうところを考えようとかですね、そういうのを、やっばこう上手く、こう深く、入れているので。単純に薬物は駄目だよっていうところよりは、それぞれの個人の要因もあるから、普段の生活も気をつけようね、とか相談できるような、普段の生活の中で相談できるような人を探そうねとかですね、そういったところもちょっと踏み込んで書かれてるので、非常にいい学びができるんじゃないかなあとと思いましたので、推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も学研の方を推薦したいと思います。今、皆さんがおっしゃったように、見方・考え方を設け、保健体育の見方・考え方を働かせて学習できるようにしているっていうところと、各章の方で、写真が他の教科書と違って、大きく載せたり、ちょっと明るい感じの保健体育の教科書になってるかなあというところで、私は推薦していきたいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も学研の方を推します。まず学研の方がですね、一つの小単位の中でマップがあり、これに課題ができ、そしてその有無を学ぶことによって、学びを生かすということで、終末の方ですね、学びの活用ということで、自分で考えて自分で答えを出すというようなことですね。この流れが時間、時間、しっかりしているということと、薬物関係でですね、比較してみました。そしたら、他の教科書においてはですね、薬物をやることによって、覚せい剤の乱用とか、

そういったことで、悪い方向の件が出ていたんですけども、この学研の方はですね、薬物のところで、女の子のイラストで、1回だけならいいかな、断れない、あるいは、かつこいいなということで、中学生の心情がそのまま、このイラストの中に出ていないかな。そういった、かつこいいかと思ったものが、これからどうなるのか、というようなこと、そして、また次の時間にはですね、誘いを断るということで、ロールプレイングをしてみるとか、というような形で、具体的なものが示されているので、私は課題解決型の作り方というか、構成ということでですね、学研の方を推します。以上です。

(議長)

ありがとうございました。では私の方になります。私も4社見比べていて、学研がいいのかなと思います。昨日、調査員の方からありました。この1時間の流れってところ、特にエクササイズ、それから学びに生かすってところがすごくいいなと思ったんですね。実践の部分と、あとまた、さらにそれをどうするか、先ほどから出てる薬物のところも、昨日の説明では、そのあとまた地域に出て、その活動まで生かすというところが出たのは面白いなと思いました。それから、私がとっても今気になっているのは、子供たちのストレスです。どうにかこのストレスの対処について、何か、どこかでできないのかなと思っていた時に、この保健体育で、それぞれの教科書会社さんが扱っているんですが、学研さんは、このストレスってって、実はこのなんて言うんですかね、理論的なものから始まって、エクササイズがあって、あともう一つ、学びのもうちょっと深めになると。じゃ、他人がそうなっているのを見かけたら、まで出てきてるんですね。これとっても面白いなあと考えていて、いじめに関するんですけど、自分だけじゃなくて、またそういうお友達を見かけたらのところまでできていたの、はい。学研さんがいいのかなあと考えています。以上です。

(議長)

ということで、全員が、保健体育に関しては学研ということにはなりました。保健体育に関しては学研、東書、大日本、それから大修館ですね、4つありましたけれども、学研に選定したいと思います。理由は、各時間の冒頭にウォームアップを設けて、そしてみずから課題を発見し、主体的に学びに繋がっている。ストレスの対処法が丁寧に扱っている。それから薬物に対してのロールプレイがあった。見方・考え方が唯一ある。それから図が豊富にある、学びを生かすが、正解一つに定まらないように、随所に設け話し合いを促す工夫があった。それから、このエクササイズ、学びを生かす等が大きく評価されたのかなと思います。では、保健体育について、学研を選定することでよろしいですか。では、保健体育についての協議を終了したいと思います。お疲れ様でした。

協議 14 音楽(一般)

(議長)

次は、音楽一般、そして引き続き器楽まで、協議をしていきたいと思います。音楽一般は、教芸、教出の2社について、調査員による調査研究報告が行われました。報告書25ページです。では、推薦する発行者について、意見、よろしくお願いします。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。よろしくお願いします。昨日、調査員からの報告もあったんですが、音楽一般についてですね、教芸の方を推薦したいと思います。なぜかという、タブレット端末で利用できる機能を、録音、録画や他のデジタル教材を使うことで、特別な支援を必要とする生徒への、学習上の困難を軽減することができるということ報告があって、すべての子供たちにですね、音楽の楽しさを教える工夫をしてるんだなということで、感じました。音楽ってなんだろうということでですね、この内容解説資料の中にも、学びたくなるような内容になってると、それから、それを学んでですね、また学びがわかる、そして、それをまた、自分の生活に生かしていけるような感じの流れで、教材が組まれてるということで、表紙を見てもですね、ちょっと楽しそうだなということで、そういったところも含めてですね、音楽はやっぱ楽しくね、やっていけそうなものを、取り扱っていただきたいということで、教芸の方を推薦したいと思います。

(議長)

はい。ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私も教芸を推します。理由としては、教科書に掲載されているワークシートを使うことで、生徒が自分の考えを整理しながら、学習を進めることができるので、教芸を推薦いたします。

(議長)

はい。ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も教育芸術社の方を薦めたいと思います。どちらの教科書もよくできていたんですけど、教育芸術社の方は特に、沖縄の組踊が取り上げられていたり、器楽の方は後でかな。モンパチが取り上げられたりっていうと、ちょっと身近な音楽の方を取り上げられてるっていうところも、ポイントとして高かったかなあとと思います。以上です。

(議長)

はい。ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい、私も、教芸ですね、推薦したいと思います。どちらも中身的には、魅力的だなというところあったんですけど、委員からもあったように、沖縄の子供たちが、どんな感じで、音楽とつき合っていくのかなあと、それを考えたときに、じゃあどう取り扱ってるのかなと。沖縄の音楽文化をどう取り扱ってるのかなと考えたときに、もう、ふんだんなくあったのが教芸でした。組踊、涙そうそう、モンパチ、三線、細かいところでいくと谷茶前とか。もういっぱいあったので、これだと、沖縄の子供たちにとっても親しみやすいんじゃないかな、というところで、教芸を推薦いたします。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も教芸を推したいと思います。二つで、特に見比べた部分が、難しいって、よく聞いている創作活動です。音楽を作るっていうところでできたらいいのになって、いうふうに思いつつまた、そういう授業も見たことがあるんですけど、すごく工夫された授業においては、すごく楽しそうにやる部分だったので、ここ着目したんですけども。その部分において作曲ソフトみたいな形で紹介してましたけども、そういうものがあるということで教芸を推したいと思います。

(議長)

ありがとうございました。次、■■■■委員お願いいたします。

(委員)

私も教育芸術社の教科書を推薦したいです。先ほどもおっしゃってましたが、特別支援の子供たちに、使いやすい機能がいっぱいあって、拡大教科書なんかの部分の紹介もあったので。なかなかここを取り上げてる社はないだろうなっていうところがあるので、そこら辺が非常にいいなと思ったのと。あと、それぞれの教科書を見返してみても、同じ声を出すっていう練習をするときに、教芸の方が少し詳しく書かれていたりしていますので、教芸の場合だと声の出る仕組みを、体の図を示して、声帯からどういうふうに空気が通って、声が出るんだよ、みたいなのを、詳しく説明していたり、そういったところがつけ足しがあったりですね、あとは郷土に伝わる民謡の紹介のページなんかを見ても、この民謡、それぞれがどういう歌の種類なのかっていうものまで、少しマークとして、子守歌なのかみたいなのところまで、つけ足して書かれてるところに、すごく学びが深まるなというふうに感じたので、教芸を推薦したいと思います。以上です。

(議長)

はい。ありがとうございました。続いて、■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も教育芸術社を推薦します。理由としては、先ほどから出てるように、特別支援を必要とする生徒への学習の困難を軽減することができるっていうこと、また、他の子たちも、楽しく使える教材になってるのかなあっていうところと、それで、調査員と、またアンケートの皆さんの意見が、教芸の方が多かったので、教えやすい教科書になってるのかなと思います。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございました。■■■■委員お願いいたします。

(委員)

はい。私の方も教芸の方を推します。何といっても、沖縄の教材がたくさん入っているということがですね、一番うれしくなります。特に沖縄の子でも三線を三味線と言っている子が、まだたくさんいるんですよ。違うよ、これ、三線だよと言ってですね、表記されてるのは、大体、三味線とかって出てきたもんですから。このような形ですね、今回はですね、しっかり三線というので出ていますので、これで名前の方が出るだろうなと。そしてあと、私、音楽大嫌いなんですよね。小学校、中学校のころ、だから私の大嫌いな音楽がですね、どんなふうにして出てるんだろう、というのを見たらですね、すごいなと思ったのが、教育芸術のですね、音楽、1年生の方の15ページなんですけども。音の出る仕組みとか、こんなだよ、ということを1度も教えられませんでした。ただ、もっと大きな声で歌え、しっかりやれ、これだけでしたので、全く意味わからなくて、そういった意味ではですね、そういった声の出る仕組みとか、そういった調整音とか、そういった形のものが具体的に起こることによって、いいなと思います。そして特にうれしかったのがですね、他県のですね、歌舞伎そして文楽よりも前に、組踊があるんですよ。今までいつも組踊っていうのは、日本の伝統文化の、それらの後にしか出てこないんですけども。今回はそれらの前に表示されてるということで。沖縄もついにここまで来たか、ということですね。大変うれしく思いました。ということで、私の方も同じように、教育芸術社を推していきたいと思います。

(議長)

ありがとうございました。では最後になりますが、私もですね、昨日の調査員のお話を聞いて、二つの教科書を見比べたときに、教育芸術社がいいのかなと思いました。皆さんがお話しされてる、やはりコンテンツの中に、特別支援の配慮が非常にあるなと思ったのは大きかったですね、音声の読み上げもありますし。これ私ちょっと本当は聞きたかったんですけど、反転、例ができるっていうところ、文字のところがあったので。これはすごくいいなと思いました。あとまた[]委員から言ってる、私もとてもすごく興味があつたのが創作の部分でのものも、アプリを入れたらできるということがありましたので、すごく自分が創作したのが、そのまま音楽に流れるということもできるって言っていたので、すごくこも楽しみだなと思います。それからもう一つ、また今、ちょうど私また見て見比べながら見つけたんですけど、著作権のお話も、実はこの教科書の中に出ていましてね。権利、知的、財産として、実はこの辺、何て言うんですかね、私たちここをちゃんと学ばないといけないなと思っているので。こういった、また、お話も出てるのもすごくいいなと思いました。はい。以上となります。

(議長)

ということで、音楽一般に関しては、教芸の方が、全員一致で選定ということになりましたけれども、よろしいでしょうか。音楽一般は、教芸、教出、2つありましたけれども、教芸を選定したいと思います。理由としては、このタブレット端末で利用できる機能、録音、録画の話も、昨日なさってましたね。他のデジタル教材を使うことで、特別支援の必要とする生徒への学習上の困難を軽減することができる。また、この掲載されてるワークシートを使うことで、自分の考えを整理しながら進めることができる。沖縄なので、沖縄の教材が多く使われている。そしてまた、作曲ソフト、よかったなと聞き思いました。あと拡大教科書などの、特別支援の目ですね、そういうのがある。それから声の出る仕組み等の説明が詳しく書かれているというのがありましたので、では全会一致で、教芸を選定したいと思います。

協議 15 音楽(器楽合奏)

(議長)

では続きまして、器楽の方に移りたいと思います。では器楽もですね。同じように、2社からです。教芸と教出から。調査報告が、昨日なされましたけれども、選定に関してのご意見、[]委員からよろしくお願いいたします。

(委員)

はい。よろしくお願いいたします。器楽の方もですね、教芸の方を推薦したいと思います。器楽の方もやってみたいということでですね、教科書の9ページとかに、いろんな挿し絵があつてですね、いろんなものを紹介しております。そして、まずこの器楽の方も、特別支援の方にですね、とても配慮していただいて、子供たちがですね、音楽に親しめるように、作られてるなという感じがしました。あとはまた、音楽の学習としてですね、社会ともつなげるんだよということですね、いろいろ書かれてましたので、そういうことも含めて、教芸の方を推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。[]委員よろしくお願いいたします。

(委員)

私も教芸を推します。理由としては、音楽活動の経験や音楽科で得た知識を、生活に生かすことができるように、生

活の中にある様々な音や音楽への関心を促す特集が、取り組まれているので、教芸を推します。

(議長)

ありがとうございました。では 委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も教育芸術社を推したいと思います。音楽の教科書とそろえるっていう意味もあるんですけど、すごく、音楽って何かなあとか、音楽の向上への情熱とか、そういうのもしっかり伝えようっていうような、意気込みが感じられるような、教科書かなあと思っています。またちょっと、先ほども先に話してしまいましたが、モンパチが入ってるっていうのが、はい。一番大きいかなあと思います。はい。以上です。

(議長)

ありがとうございました。 委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も教芸の方を推したいと思います。先ほど沖縄の関係のものが、ふんだんに入ってるということも申し述べたんですが、教科書のですね 8 ページ、9 ページにですね、思考力、判断力、表現力、知識、技能ということで、身につけられる資質能力、これがしっかり入ってるということで、もちろん音楽の器楽以外にもあったので、しっかり、これがわかりやすく表記されているというのが理由です。以上です。

(議長)

ありがとうございました。 委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も教芸を推したいと思います。先ほどの理由にもかぶるのですが、特別な支援を必要とするというところで配慮もありますし、あと、先ほどの一般の教科書と連動している資料が多く存在するということもありますので、こっちなと。また、全体的に二つを比べていくと、教芸の方が、写真も多く、楽器を引いてみたいなって思うような、あと、使い方をしているなというふうな印象があったので、それも加えて、こちらを推したいと思います。

(議長)

はい、では 委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も教育芸術社の器楽教科書を推薦します。音楽一般と同じように、デジタルコンテンツの中で、機能が充実してるっていうこともそうなんですけど、同じギターっていう楽器を紹介してるページを見ても、そのギターをどういふような演奏で、こう使ってるのかとか、そういうロック、クラシック、それぞれの写真が載ってるのがすごく実践的なのかなっていうところを、イメージしやすい感じはしたので、そういうことも踏まえ、教芸の方を推薦したいと思います。以上です。

(議長)

委員お願いいたします。

(委員)

はい。私も教育芸術社を推薦します。一般の方の音楽等の使用に連動して使えるかなあというところと、他の学生が、いろんな学習上の困難を軽減することができるっていうことで、一緒かなあと思っています。以上です。

(議長)

ありがとうございました。 委員、お願いします。

(委員)

はい。私も教育芸術社を推薦いたします。これまでオーケストラは洋楽器っていうな形の演奏が多かったんですけども、このですね、70 ページの方にあるんですけども、和楽器とオーケストラですね、そしてまた津軽三味線とバンドと

このような形で、新しいジャンルのですね、形態をこういったことに示すことによって、子供たちがこれまで固定観念で持っていた楽器の使い方をですね、いろんなものとのコラボができるというようなことを知ることができるし、そしてまた、あと特別支援的なですね子供で、これだったらできるってというようなことをですね、この子供たちに、演奏をさせ、その他、頑張る勇気をですね、与えることもこの器楽を通してできるのかなということで、私の方も、教育芸術社を推します。以上です。

(議長)

はい。ありがとうございました。

(委員)

はい。では私です。私もこの見開きの8ページ9ページのところで、先ほどは、思考、判断の方があったんですが、私この9ページにある音楽を形づくっている要素っていうのがあるんですが、実は、この音色とか、リズムとか、速度とか、旋律とか、強弱とかあるんですけど、これ小学校もこういう言葉を使って、この曲を説明するというのがあるんですね、音楽の中で。そういったものをきちんと提示していったら、この楽器が、そのどこに当たるのかっていうのがきちんとあるのは、面白いなと思いました。例えば、ギター、琴とか、もう音色なんですけど、太鼓になるとリズムが入ってくるとか、そういうのもあるので、面白いなと思っていて、それをちょっと、教芸さんは特化してるなと思ったので推しました。

(議長)

はい。では教育芸術社の方に選定したいということになりました。2社ありました。教芸を選定したいと思います。理由としては、挿し絵、写真でいろいろのものを紹介しているのと、あとこの特別支援の手だてというのが何度も出てきたかなと思います。それから、今回、生活に生かすことができるように、生活の中での、音楽の関心も、書かれていた。それからやはりモンパチ、そういうのも載せている、沖縄のバンドですけれど。新しいジャンルのイメージも示しているというなどがありましたので、教芸を選定します。では、これで音楽一般、器楽に関しての協議を終えたいと思います。お疲れ様でした。

協議 16 美術

(議長)

美術について協議したいと思います。昨日、開隆堂、光村、日文の3つの発行者すべてについて、調査員による調査研究の報告が行われ、報告書は29ページになります。では、委員の皆様が推薦する発行者について、意見よろしくをお願いいたします。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。よろしくお願いいたします。私の方は光村の方を推薦したいと思います。理由としては、光村の方ではですね、資料編が作られていまして、絵を書くときに、どうやって描くっていう質問でですね、いろんな画材とかですね、色鉛筆、それから制作ということで、これを見たものを、いろんなものを使って描きたいなという制作意欲が湧いてくるんじゃないかなというのが、一つ感じました。それから鉛筆とそれから水彩以外で、水彩絵の具で描くものと、いろんなものが出ました。それぞれについて、どうやってやるのかということで書いてありました。それから制作過程が見える教科書の構成になっておりました。みんなの工夫ということでですね。工夫したところ、それからこだわったところは、どこなのかということで、そういった流れがわかるようなですね、動画も含めて用意してありましたので、そこら辺もいいなということで、絵を描くことが楽しくなりそうだなということで、私は、光村の方を推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。では■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も光村を推します。理由としては、共通事項を認識できるポイントの吹き出し、問いかけ、評価のイメージが持てる、生徒の活動場面の写真などを、多く掲載されているので、光村を推薦いたします。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も光村を推薦したいと思います。まず、光村の1年生の26ページの方なんですけれど、みんなの工夫ってことで、それぞれ表現の工夫の仕方っていうのは、どの教科書も取り上げてるんですけど、光村の場合も実際、こう、子供たちがしゃがんでみたり、構図化してみたりっていう形で、どういう図がより自分の表現に迫れるのかっていう工夫は、こういうふうにするんだよっていうことを、よりわかりやすく例示されているのかなあと思いました。そして、もう何よりもですね、印刷が素晴らしくてですね。一例を挙げると、風神雷神が、もうどの教科書も全部取り上げられてるんですが、迫力が全然違うっていう、他のゲルニカとか、他のものもそうなんですけれど、やはり美術に向かって、その気持ち、興味が湧くこの意欲が湧くっていうのは、まず、やはり美しさに触れるっていうところから始まると思うんですね。こういうふうに表示してみましょかねとか。技術をもちろん教えるっていうことも、大事なんですけれど、こんな表現があるんだなっていうことで、やはり心が動かされるっていうのが、何よりもまず大事、体験としての、出会うっていうところで、素晴らしい印刷っていうのも、ここまで迫力のある作品提示ができてるっていうのは、本当に素晴らしいなあっていうふうに、とても感動しました。光村を推します。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい、私もですね、光村を推すんですけど。特に共通してるものとして、同年代の作品をデジタルコンテンツで紹介してるのは、もう共通してる部分で、あと開隆堂さんはですね、この表紙がものすごくリアル感があって、とてもいいなと思ったんですけど。光村はですね、中身の色合いとかですね、大きさ角度、特に和紙を使ったものがあるってですね、本物に近いものを掲載してるんじゃないかなというところで。子供たちが興味関心を持って主体的に学習に取り組めるんじゃないかなというところで、光村を推します。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も光村を推します。理由はいくつかあるんですが、特にこの中学校3年間で必要な技法などの資料をコンパクトに別冊にまとめている。3年間でこれだけのことができるようになるんだっていうことで、1年生でこれを手にした時に、すごくわくわくするのかなと思い、また自分でも、授業以外でやってみたいって思うようなものなのかなっていう部分、見通せるのと、あと、わくわく感が出るっていう部分と、あと、観点の報告であったんですが、QRコンテンツで、体感ミュージアムっていうものがあるって、端末に書き込めると、教科書になかなか何かを書き込むとかできないと思うので、せっかくの資料なので、鑑賞を深めるための、この中、書き込めたりするような、コンテンツがあるという部分が、すごくいいなというふうに感じました。以上です。

(議長)

ありがとうございます。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も光村図書を推薦します。皆様がいろいろお話しされてるんですけども、本当に教科書を見て、綺麗だなとか、こういうのを自分も書いてみたいとか、そういったところに繋がるかどうかっていうところは、非常に大きいかなと思うので。教科書本体もそうですし、この別冊資料の方も、いろんなやり方があるんだなっていう、自分の好きなやり方で書いていいんだな、みたいなのとか、単純に鉛筆で書くのか、アクリル絵の具で書くかで、いろんな技法もあるよっていうことも含めて、ちょっと紹介されてるのが、非常にいいなあと思いました。あとは、もう本当に手で本当触りたいので、それぞれの会社さんにリアリティーのある表紙だったりとか、先ほどいった和紙の部分とか、いろいろあるので、そこら辺はあまりこう、差はないのかなとは思ってますけど、そういったところは非常に、どの教科書さんもうまく取り入れられていて、いいなって思いました。デジタルコンテンツも、できればデジタルよりは触った方がいいですけど、そういうのは全部、実現できるわけではないので、なるべく近い形で体験させてあげたり、分析するっていう部分も考えて、そういう光村のデジタルコンテンツの方も、非常に充実してるなと思ったので、光村を推薦したいなと思います。以上です。

(議長)

はい。ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい。私も光村を推薦します。理由としては、美術の教科書を見て、いろんなところに視野が広がる。これがどうなるんだろう、何をつくれるんだろうとか、そういったいろんなことが考えられるような、工夫によって、生徒がですね、試行錯誤しながら、見通しを持って、主体的に制作に取り込めるっていうところを重視してるような教科書になってましたので。私はそこを推薦したいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。■■■■委員、お願いいたします。

(委員)

はい、私も光村の方を推薦いたします。まず、小学校の図画工作から、この美術というところに入ることによって、子供たちが、美術を次やるんだ、ということでですね。自分自身のスキルアップが、こういうふうになるんだということの、自分の目標とか、そういったことになるようなものを、最初の方で表示している。そして、その中を見ていてもですね、身近なものを取り上げて、題材として作っている、あるいは描いているということで、子供たちが自分の周りのものに、これが美術的なものがあるんだろうとか、そういったこと、生活の中でそういったことの、発想が出ていくことによって、また鑑賞ということにも結ばれるのかなということをですね、感じました。そこで、光村さんの方を推薦いたします。

(議長)

はい。ありがとうございました。では私が最後になりますが、本当に、昨日皆さんともお話ししたんですけど、最後が美術で本当に癒されるというか、どの教科書もすごくすてきだったんですけども、私も光村を、はい、推薦したいと思います。理由はもうたくさん話されているのでかぶってしまう部分があるんですけど、3点お話しします。1つ目は■■■■委員、調査員も言ってましたが、教科書に生徒たちが出ているというところ、その生徒のつぶやき等でっていうところがあるっていうのは、確かに光村さんの特徴かなと思いました。それから2点目ですね、デジタル教材というところで、委員が出てたんですけど、最後の晚餐のところに書き込みができる、吹き出しが書けるっていうのは、すごい面白い発想だなと思ったんですね。小学校と何が違う、図画をついていったときに、小学校はあまり鑑賞に時間をかけられないというか、かけてないんですけども、中学は、鑑賞にすごく時間をかけてるときに、やはりこの発色がいいとか、そういうのはでかいのかなあとと思いました。そして3番目は、国語の時に言えなかったんですけど、光村さん、言葉を大事にするというか、語彙ですね。国語では、巻末にあったんですけど、今見たらですね、美術の方の最後のページにも、この語彙、国語と関連してっていうことで、この表す言葉、この下の方にあるんですけども、この絵を見て、どういう言葉、これって、語彙力が増えていくんですね。幻想的とか、神秘的とか、こういう言葉の紹介もあったのもまた、特質というか、どっか違っていいなと思いました。以上3点でした。

(議長)

全員が光村という形になりましたけれども、美術に関しては、日文、光村、開隆堂がありましたけれども、光村に選定いたします。選定の理由としましては、中学3年間で必要な技法を資料別冊ですね、コンパクトにまとめていた。それから、制作過程が見えるみんなの工夫、生徒が、試行錯誤、先ほど■■■■委員からもあったというところですね。あと共通事項を意識できるポイントの吹き出し、問いかけ、評価のイメージができる生徒の活動の写真が多く掲載されている、もう印刷が3社の中で、非常に発色がいいというのがありました。風神雷神のところの例で比較がありましたね。それから、同世代、同年代の作品をデジタルコンテンツで紹介していて、日本のものは和紙の質感等も入れていた。それから、書き込みができるコンテンツがある。それから言葉ですね最後の、私がお話しましたが、語彙の方の表記があるというところで、光村の方で選定したいと思います。よろしいでしょうか。

(議長)

教科書の選定が無事終わることができました。ありがとうございます。では進行の方に渡したいと思います。よろしくをお願いします。

(進行)

はい。では委員の皆さん、長時間の協議、大変お疲れ様でした。昨日、今日、大分タイトな時間でしたが、比較的スムーズに進行できたかなと思っております。今日も予定より、だいぶ早く終了できたことに大変感謝申し上げます。あり

がとうございました。では、ここで閉会に移ります。閉会の言葉を、仲本委員お願いいたします。

(委員)

はい。皆さん、2日間、お疲れ様でございました。私、小学校の選定まで含めると、3回目なんですけれど、選定委員会、今回は本当にちょっと大混乱で、頭の中が、3日通常かけてやるもの、2日に詰め込んだということで、最初はちょっと情報の嵐がすごくてですね。ちょっと頭の中を整理するのに大変混乱したんですが、最後は、今日の話し合いもすごく、それぞれの委員の意見をじっくり聞けて、いい教科書が選べたかなと思います。この教科書を使って、子供たちが、次世代を担う、未来ある明るい学びを獲得していただけるといいなと思いました。今日は事務局の方も、ありがとうございました。これで那覇地区教科書採択協議を終わりたいと思います。お疲れ様でした。